

令和5年度  
特色ある学校・園づくり支援事業  
報告書



令和6年3月  
所沢市教育委員会

# 目次

まえがき・・・・・・・・・・1

## I 小学校

所沢小学校	2
南小学校	3
北秋津小学校	4
荒幡小学校	5
北小学校	6
清進小学校	7
明峰小学校	8
伸栄小学校	9
美原小学校	10
並木小学校	11
中央小学校	12
松井小学校	13
若松小学校	14
安松小学校	15
和田小学校	16
牛沼小学校	17
柳瀬小学校	18
東所沢小学校	19
富岡小学校	20
西富小学校	21
中富小学校	22
小手指小学校	23
上新井小学校	24
北野小学校	25
北中小学校	26
山口小学校	27
泉小学校	28
椿峰小学校	29
三ヶ島小学校	30
若狭小学校	31
林小学校	32
宮前小学校	33

## II 中学校

所沢中学校	34
向陽中学校	35
美原中学校	36
中央中学校	37
南陵中学校	38
東中学校	39
安松中学校	40
柳瀬中学校	41
富岡中学校	42
小手指中学校	43
北野中学校	44
山口中学校	45
上山口中学校	46
三ヶ島中学校	47
狭山ヶ丘中学校	48

## III 幼稚園

所沢第二幼稚園	49
---------	----

# ま え が き

所沢市では、心豊かにたくましく、創造的に生きる幼児、児童、生徒の育成を目指し、平成13年度より「特色ある学校・園づくり支援事業」をスタートさせ、市立幼稚園1園、小学校32校、中学校15校それぞれの特色ある学校・園づくりを支援してまいりました。

各学校、幼稚園では、特色ある学校・園づくりの宣言文を掲げ、地域の人材や環境を生かした創意工夫のある教育課程の編成・実施など、幼児、児童、生徒が生き生きとした生活を送ることができるよう教育活動を展開しております。

この報告書は、各学校・園の1年間の活動をまとめたものです。

各学校・園におかれましては、自ら点検や評価を行い、その結果を検証するとともに課題を把握した上で、教育課程や指導方法の改善に努められ、特色ある学校・園づくりを一層推進されることを願います。

あわせて、この報告書をとおして、市内47校と1園の特色ある学校・園づくりの概要や成果を広く市民の皆様に周知してまいります。

今後も、市教育委員会では、予算や施設設備、人的配置など、可能な限り、学校・園の自主性や自律性が生かせるように配慮し、特色ある学校・園づくりを一層、支援してまいります。

令和6年3月

所沢市教育委員会

## 所沢市立所沢小学校

**家庭・地域・教職員が一丸となって、温かい心を自ら育み、  
より賢く、より逞しくあろうとする児童を育成します**

### 1 特色ある学校づくり概要

歴史と伝統を受け継ぎ、活気あふれる教育活動を展開している。

- (1) 所沢中学校区による小中連携の推進
- (2) 学校課題と解決策を明確にし、組織を活かした計画的な教育活動の推進
- (3) 地域の教育力を活かし、児童の体験活動を充実させ、温かい心を育み、より賢く、より逞しくあろうとする児童の育成
- (4) 児童が主体となって活動する環境教育の推進



「花いっぱいプロジェクト」

### 2 具体的な活動の紹介

所沢中学校区による小中連携「所澤学校」を推進するため、中学校区三校連絡協議会を行ったり、3校合同で生徒指導研修会を実施したりするなど、日頃より児童・生徒についての情報共有、組織的な対応を行ってきた。

学校課題に対しては、運営委員会を中心に、学年主任また教科等主任をリーダーとして組織的・計画的に課題解決に取り組んだ。また、教職員の授業力向上のために、ICTを活用した授業づくりを中心に校内研究にも取り組むことができた。

生活科（2年）では、商店や図書館などの地域の施設を見学したり、総合的な学習の時間（4年）では、障害のある方から直接話を聞いたり車いす体験をしたりして、みんなが住みよい社会について学ぶことができた。

後援会の協力により、保護者・地域と連携した活動も様々行っている。「花いっぱいプロジェクト」では、ひまわり（種）やコスモス（苗）を、教職員や子どもたちが一緒に植えたり世話をしたりすることができた。12月には、2000個のチューリップの球根を学校花壇に植えていただいた。また、「トイレぴかぴかプロジェクト」では、毎回50人以上のボラティアの方々が校舎内のトイレ掃除を行い、校内の環境整備にも協力していただいている。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

子どもたちに、充実した行事や体験活動、本物に触れる体験の機会を多く設けることができた。それらの学習を通して、子どもたちの確かな学力と自己肯定感を高め、豊かな心を養うことができた。「きれいな花が咲いていてうれしい。（子どもの声）」「学校だよりから子どもと真摯に向き合っていることが伝わってくる。（保護者・地域の声）」



## 「ともに学び 自分をみがき 大きな夢を育む学校」の創造

- 1 わかった できた おもしろい が実感できる授業の創造
- 2 レジリエンスを高める指導の工夫
- 3 環境は人をつくる されど環境は人がつくる 教育環境の整備・充実
- 4 学校・保護者・地域が一体となって取り組む地域に根ざした教育の実現

### 1 特色ある学校づくり概要

本年度、本校グランドデザインの中で「豊かな心と健やかな体の育成-レジリエンスを高める-しなやかに たくましくへこたれない心-」を掲げ、最重要課題としている。本事業においては、それと関連し「環境教育及び学校環境の整備-環境は人をつくる されど環境は人がつくる-」に向け、ボランティアさんに毎月お願いしている玄関の花飾りの原材料費や小中連携を意識し、合同音楽朝会として同時中継をするためにSIMカードの購入した。また、草刈用の刃など教育環境整備に事業費の多くを当ててきた。併せてレジリエンスの育成に向け外部ボランティアや校内研修にも事業費の多くを当てた。



埼玉県小・中学校

食育指導力向上授業研究の様子

### 2 具体的な活動の紹介

児童のレジリエンスを高めることを本校教育活動の柱として、市教育委員会の委嘱を受け学び創造アクティブ PLUS クリエイト研究や、埼玉県教育委員会の委嘱を受け埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究について、学校全体で取り組んできた。本事業においても保護者・地域の方々のボランティアへの謝礼等に当て、多くの方の協力を得ることができた。その結果、全国学力・学習状況調査「Q 自分には良いところがありますか。」において、R3年度 36%→R4年度 42%→R5年度 51%と2年連続増加し、レジリエンスを高める研究の成果の一つとなった。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

児童のアンケートからも南っ子自慢は、「あきらめない」「くじけない」「挑戦」「責任を持って取り組んでいる」「心が豊かな」という言葉があり、児童の中にレジリエンスが備わってきている。

## 子供を大切にする学校 北秋津小

～地域・家庭・学校が一体となって創る「笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校」～

### 1 特色ある学校づくり概要

「子供を大切にする学校～地域・家庭・学校が一体となって創る『笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校』～」を目指す学校像とし、本市教育の基本理念「3つの宝を大きく育てる」を具現化し、子供たち、保護者・地域、教職員が誇れる魅力ある学校づくりを推進してきた。「ふるさと所沢を愛する心」については、「出会いと対話」を合言葉に、地域の教育資源を活用し、地域からも学ぶ子供たちを育成した。「未来を拓く知恵」については、ICTの活用による授業改善を促進するとともに、特別活動（話し合い活動）の学校研究により、児童の思考力・判断力・表現力を育成してきた。「心身のたくましさ」については、体力向上の取組、基本的な生活習慣づくり、体験活動の場等の環境を整備しつつ、あきらめない心や運動好きな児童を育成してきた。



環境整備：環境委員会の活動から  
花苗を花壇に植えている様子

### 2 具体的な活動の紹介

昨年度、本校では、「笑顔であいさつ北秋津」「あいさつは北秋津の宝物」という2つの横断旗を新調した。この合言葉のもと、毎日の登下校をはじめ、大勢の地域の方に見守りや教育活動へのご協力をいただいている。「学校農園」や「全校俳句作り」「低学年での外国語活動」では、地域の方を外部講師にお招きしご指導いただいた。どの活動も児童にとって貴重な学びの場になった。「银杏プロジェクト」と銘打った活動では、児童が拾い集めた银杏を加工し、無人販売所で販売した。このプロジェクトも地域の方に大変お世話になった。校内には、地域の方が生けてくださったお花、掲示物、絵画や写真も飾られており、地域と一体となった教育環境が実現できている。この他にも、北秋津町内体育祭や北秋津町内文化祭では、学校と地域とのつながりを深めることができた。また、植木の剪定、トイレ清掃や運動会・音楽会の運営では、PTAの保護者の方にご協力をいただいた。学力向上については、TSG構想に基づいて、ICTを活用した授業改善を促進してきた。さらに、特別活動（話し合い活動）の学校研究により、児童がお互いの考えや思いを尊重しながら「折り合いをつける力」を身に付けてきている。学習環境整備としては、花壇、学校農園の整備・維持や充実を図った。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「子供を大切にする学校～地域・家庭・学校が一体となって創る『笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校』～」は、子供・保護者・地域にも浸透してきている。子供たちには、「トライアル&エラー」や「ちようせんしよう。ときどきしっばいもしよう。」「しっばいからも学んで成長しよう。」と伝えている。地域総ぐるみで「大切にされている」実感がもてるように日々の教育活動を充実させてきた。

＜地域の方の声＞

コロナが5類になり、また学校行事などで子供たちの活躍の場を地域の私たちも観る機会が増えました。子供たちが、お友達と一緒に一生懸命に取り組んでいる姿を見て、感じて元気をいただいています。先生方のご指導に感謝しています。これからもよろしく願いいたします。

＜保護者の声＞

今年度は子供たちが実際にその道のプロから学べる体験型の授業を多数行って頂き、とても良い機会だったと感じています。情報モラルの授業や走り方教室など、なかなか普段出来ないことを実際に見て体験でき成長の糧になると思っております。

是非来年度以降にも体験型授業を期待しております。

## 所沢市立荒幡小学校

子供たちの心のエネルギーを満たし、「ひとみキラリ、笑顔キラリ、汗キラリ」3つのキラリが輝く、勇気づけに満ちた教育（共育）活動を学校、家庭、地域で推進します

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は豊かな自然環境に恵まれ、学校に隣接する荒幡富士では郷土史を学ぶことができ、いきものふれあいの里センターでは自然体験や生き物観察も行うこともできる。地域住民の方々や保護者は、地域への愛着や学校への思いが強く、学校に大変好意的で、環境整備や教育活動にも積極的に協力して下さる。これら地域の教育資源や地域人材を活用し、学習を進めてきた。他者を意識し進んで関わるための「あいさつ」の取組に力を入れたり、人との関わりの中でコミュニケーション能力を高めるために、体験的な学習や3人組での学び合う活動を多く取り入れたり、他者や集団から尊重される経験を積むために、集会活動やグループエンカウンターを意図的に実施したりしてきた。そして、子供が嬉々として登校し、充実した活動をし、満足して下校する学校を創り上げている。



いきものふれあいの里センターで  
落ち葉集めをする児童

### 2 具体的な活動の紹介

- 保護者や地域の方々、学校応援団等の連携を推進・強化し、学習活動や学校行事の中での協力を依頼し、ボランティア活動を通して本校の教育活動の方向性を周知し、支援の充実を図った。
- 新型コロナウイルス感染症が5類となり、地域の方々との連携強化を行った。町内会の方々や保護者、児童による除草作業、ARARE（あらはたりサイクル）による牛乳パックや新聞紙、アルミ缶回収、図書ボランティアによる図書室整備等を行いながら、地域に根ざした共同体としての学校づくりを行うことができた。また、その様子についてはホームページや教職員が児童に周知するなどし、地域の方々への感謝の念を育成し、登下校の際の見守りの方々へあいさつや声掛けにつながるように指導した。
- 地域や各機関のゲストティーチャーによる学習サポートを推進した。「荒幡富士」「いきものふれあいの里センター」での学習では、第二幼稚園の園児や地域の方々と一緒に活動したり、「ゴールボール」「書きぞめ指導」などはゲストティーチャーから本格的な指導を受けることができたり、子供たちの学習意欲の喚起や学習支援に大いに役立っていた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

3つのキラリを意識した意図的・計画的な指導の継続により、子供たちの他者に対する意識、学級の雰囲気、学習への意欲が高まってきて、一人一人の笑顔が輝く元気な学校となってきている。

地域の方々からは「子供たちからのお礼や挨拶の言葉がうれしい」、保護者からは「帰宅した子供が、今日の体験が楽しかったと話していた」、子供からは「地域の方に色々教えてもらって楽しかった」「もう一度やってみたい」など肯定的な声を多く聞くことができた。



# 「人のために 子供も 教職員も 皆、笑顔で 尊敬し合い（愛） 協力し合い（愛） 学び合う（愛） 安全・安心な学校」

子供も教職員も家庭も地域も「北小が 大好き」と思える北小学校を目指します。

## 1 特色ある学校づくり概要

「なぜだろう」「これでよいのか」「さあやるぞ」という学校教育目標を基に、特色ある学校づくりの宣言を設定した。この目標の具現化に向け、①「生きる力」の育成、②相互理解（教員・児童・保護者・地域）に基づく開かれた学校づくり、③全教職員による学校運営への参画、④職員研修の充実の4点について、組織的かつ継続的な学校づくりを推進した。

本校で考える「特色ある学校づくり」とは、「学校教育目標を具現化し、目指す学校像を実現できる」ことである。児童の学ぶ意欲や自ら考えて主体的に判断する力などの確かな学力を育て、児童にわかる・できる喜びを味わわせていくことが重要であり、すべての児童が安心して、生き生きと学ぶ環境を作り上げることが必要不可欠であると考えている。その実現のために、本校では特別支援教育の視点に立ち、小中連携を見据えた教育活動のすべてにおいてそれを生かし、学習環境及び授業改善を行った。



chromebook を活用した学習

## 2 具体的な活動の紹介

- ①「生きる力」の育成・・・落ち着いて張りのある生活  
生徒指導委員会・生徒指導職集を定期的実施することで学級・学年の様子を全体で共有し、特別に支援が必要な児童を把握した。教育相談・ケース会議を生徒指導とは異なる視点で実施し、児童を多角的に見ることで「確かな学力・豊かな心・健康や体力をバランスよく身に付けさせる」ことへ繋がった。
- ②相互理解（教員・児童・保護者・地域）に基づく開かれた学校づくり  
学校、家庭、地域が相互に連携し子供の健全育成に努め、学校の情報発信及び情報収集に努め、地域の誇りとなる学校づくりを行った。地域の教育力を積極的に導入し、地域の人材活用を年間指導計画の中に位置づけた。
- ③全教職員による学校運営への参画・・・共に認め合い、高め合う教職員  
全教職員が学校運営に参加し、教師として、学校職員としての使命を自覚し、一人一人の持ち味と創造性を発揮するために、互いに協力し合って教育活動を推進した。週1回（主に火曜日）に学年会の時間を確保し、学年で足並みをそろえることで学級格差を軽減させ「共に認め合い、高め合う教職員」としての環境づくりを推進した。
- ④職員研修の充実・・・魅力ある授業の創造、学習指導の充実、学校諸活動の向上  
授業で子供が「わかった」「できた」と喜びを味わえるよう、学校に携わる全ての人が北小のよさを感じられるよう、全職員が専門職として資質向上のために協働と研鑽に努めた。学校研究を軸とし、全員が研究授業に取り組み、低・中・高学年・特別支援学級の4つのブロックが公開授業を行った。研究の充実のために、校内研修で、所沢市立教育センターや所沢市教育委員会指導主事及び外部講師の指導を仰ぎながら研究を推進した。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

昨年度に引き続き「ICTの活用」を校内研修に位置づけ、GIGAスクール構想で導入されたchromebookの活用研修を深めた。所沢市立教育センターや埼玉大学より講師を招聘するなどして、校内研修や授業研究を充実させることができた。ICT活用の重点について理解が深まり、教員の授業力向上と児童の関心意欲を引き出すことに繋がった。

また、学校ファームでの農業体験活動や花壇での植栽活動を行い、保護者からも好評であった。

# 「夢・笑顔・元気・愛情があふれる学校」を目指します

— 保護者・地域と連携して地域ぐるみで子どもを育てます —

## 1 特色ある学校づくり概要

- (1) Chromebook や ICT 機器を活用して児童一人一人に確かな学力を定着させる。
- (2) ブックトークの実施や電子化による図書室の環境整備を推進し、読書活動を充実させる。
- (3) 学校応援団（せいしんネット）やほうかごところ等と連携して児童を育てる。
- (4) 幼保小中高と連携し相互のキャリア教育の推進を図る。
- (5) 環境教育（ビオトープ）を推進し環境の充実を図る。



ビオトープ管理維持活動  
木の伐採の様子

## 2 具体的な活動の紹介

- (1) 確かな学力の定着に関して  
校内研修を充実させ、Chromebook や ICT 機器を道具として有効に使い、児童が意欲的、主体的に取り組める授業を実践した。各種学力・学習状況調査の結果を分析し、本校の児童の学力の課題を明確にし、各教科で基礎・基本の定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」による、わかる授業を行い、児童の学びを深めた。
- (2) 読書活動の充実に関して  
蔵書管理をデジタル化し、読書活動・環境の整備を推進した。学校司書や学校応援団、後援会と連携し、古典から新しい本を計画的に購入したり、読み聞かせをしたりすることで読書への関心を高めた。
- (3) 学校応援団（せいしんネット）やほうかごところとの連携に関して  
学校応援団の組織を活かし、リーダーを中心にそれぞれの活動が充実するよう連携しながら計画・実践した。ほうかごところの事業が安全に進められるようにスタッフリーダーと協力しあった。
- (4) 幼保小中高との連携に関して  
中学校 2 校の職場体験及び、所沢西高校との交流会を実施した。中学生は低学年を中心に児童の活動の支援を行った。高校生は 1 年生から 3 年生まで 4 4 名の生徒が参加し、全学年の授業サポート・キャリア教育で交流を深めた。地域の幼稚園・保育園とは、入学に向け交流会を行った。
- (5) 環境教育（ビオトープ）の充実と推進に関して  
計画的に樹木や花・野菜の苗を植え、緑豊かで落ち着いた環境をつくりながら、おおたかの森トラスト代表足立様を講師として招き、学校のビオトープを生活科、理科、総合的な学習の時間に積極的に活用した。教師と児童、保護者が協力してビオトープ管理維持活動を続けてきたことで「地球にやさしいこどもサミット」入選、「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023」学校・園庭ビオトープ優秀賞を受賞することができた。

## 3 成果及び児童・保護者・地域の声等

児童と身近に接することができるようになり、学校応援団の活動が充実した。活動を続けてきたことで毎月のビオトープ管理維持活動に参加する児童や保護者が 10 人程度から 30~40 人に増えた。体験活動を通して児童からは「葉の色で季節が変わっていることが分かった」「切った木を杭にしてもらい学校で使われるのが楽しみ」という感想が聞かれた。保護者からは「学校にビオトープがあることを知らなかった」「子どもと一緒に活動できてよかった」という声が聞かれた。

# 学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくり

— すべての教育活動は子どもたちのために —  
保護者や地域に愛され、信頼され、誇れる学校を創造する  
時代の要請に対応した特色ある学校づくりを進める  
児童の発達段階や実態に合った特色ある教育活動を展開する  
組織的、機能的、効果的な学校運営を推進する

## 1 特色ある学校づくり概要

本校の学校教育目標は、「本気」「勇氣」「元気」であり、学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくりに取り組んでいる。今年度は、教育環境の整備充実、校内研修【誰もが「わかった」「できた」を実感できる授業作り～学級経営を核とした授業改善～】

## 2 具体的な活動の紹介

### ① 学校ファーム「ダッシュファーム」等の教育環境の整備充実

本校の中庭には、農園が広がっており、栽培活動が盛んである。2～6年生・特別支援学級（かがやき学級）が農園を活用し、白菜、大根、にんじん、小松菜、サツマイモ等を育てている。今年も野菜が育ち、特別支援学級では、販売学習を行うことができ、勤労する意欲や豊かな心の育成につながった。大根や里芋は、学校給食の食材として利用し、栄養士による給食校内放送で、紹介していただいた。



かがやき学級  
野菜の販売学習

### ② 校内研修による授業改善

校内研修では、【「わかった」「できた」を実感できる授業づくり～学級経営を核とした授業改善～】を目指して研究に取り組んだ。学校指導訪問を実践の場とし、5/29（月）に全員が授業実践を行った。



ICTを利用した  
総合的な学習の時間

「授業規律」「自己決定の場」「児童理解」を視点にして授業展開を作成した。各教科指導の他に、学級経営の視点でのご指導をいただいた。今後も、この3視点を継続して授業改善を図っていくとともに、ICTを活用して、学びの質の向上を図ってきたい。

### ③ 体力の向上

運動する喜びが味わえる体育科授業実践は、昨年度から継続し、子供たちの体力向上に努めている。年間を通して、朝マラソン、運動チャレンジを実施し、季節限定での取組として、業間マラソン、長縄跳びを実施している。体育の授業では、毎時間の振り返り活動を位置づけて行い、自分の運動量の確保に努めた。



全校朝会：「長縄跳び」

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声

今年も農園活動は、計画から始まり、種まき、栽培、収穫の一連の活動を体験できた。学習ボランティアとして、地域の方をお迎えして里芋を植え、収穫できた。保護者には、授業参観・懇談会、個人面談を通して、子供たちの活動を見ていただいたり紹介したりすることができた。運動会、音楽発表会では90%以上の参観があり、子供たちの頑張りを称賛する感想をいただいた。



## 所沢市立伸栄小学校

本校は「子どもが伸びて、地域が栄える学校」をめざし、  
家庭・地域との協育で子どもが育つ学校づくりを推進します

### 1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標

「㊦さしく ㊧しこく ㊨よい子」

「家庭・地域との協育で子どもが育つ伸栄小」

目指す学校像のキーワードを

「㊩信頼 ㊪がお ㊫きいき」で示し、

- ・子どもが落ちついて学ぶ学校
- ・保護者や地域を信頼し、信頼される学校
- ・教職員が学び合う学校
- ・清潔で、教育的に豊かな環境のある学校  
としている。

目指す子供像は「楽しく学校に通える児童  
明るい声であいさつができる よく考えて、よく  
食べ、よく遊ぶ」としている。



花壇ボランティアさんが、正門正面の花壇を中心に、  
年3回、花壇の手入れをしてくれている。

### 2 具体的な活動の紹介

今年度は、これまで自粛してきた教育活動をアフターコロナの新しい形に変えながら、できる限り多くの学校行事を保護者や地域の方々に公開したり、日々の活動を充実させたりしてきた。

例えば、花壇ボランティアさんの協力を得て、季節に合わせて正門前の花壇整備を行ったり（写真参照）、図書ボランティアさんによる給食中の本の読み聞かせを行ったりしてきた。また、今年度から「ESD（Education for Sustainable Development）持続可能な開発のための教育」にも力を入れ、SDGsの目標を活用しながら、授業や様々な取組の中でESDの視点を意識した教育活動を行ってきた。ESDの取組の一つとして、敷地内に圃場を広げ野菜の栽培・収穫体験を行うなど、農園活動にも力を入れた。こうした様々な体験活動の充実で、潤いのある豊かな学校づくりを推進した。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

保護者・地域の方々の理解・協力のもと、今年度は公開の機会を増やすことで開かれた学校づくりを推進してきた。特に授業参観や運動会、音楽会などの学校行事をはじめ、計画していた校外行事・学年行事も全て実施し、保護者の方々から「子供の喜ぶ顔がたくさん見られて、先生方には感謝しております。」などの多くの言葉をいただいた。子供たちの笑顔や頑張る姿が大きな成果となった。

# 生き生きと学び高め合う美しい学校づくり

— 自ら学び 心豊かでたくましい子の育成 —

## 1 特色ある学校づくり概要

本校は全教職員の経営参画のもと学校教育目標「自ら学び心豊かでたくましい子の育成 考える子 思いやりのある子 元気な子」の具現化を目指し、特色ある学校づくりの指針である「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」を推進している。そのためには、教育活動の中心である授業の充実を図っていくことが重要であると考え。本校では、学習指導要領が目指す知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、常に授業の改善を図り、「わかる喜び」「できた喜び」を味わわせることのできる質の高い授業実践に取り組んでいる。



薬物乱用防止教室（6年）

## 2 具体的な活動の紹介

児童一人一人の主体的な授業参加を促し、各教科・領域の学習内容とともにコミュニケーション能力・問題解決能力・情報活用能力など未来を拓く学びの推進に努めてきた。

- ①教育課程の実施：「ユニバーサルデザインを核とする指導～ICTを取り入れた支援～」をテーマとした校内研修の取組では、指導者を招聘し全教員が研究授業を行い、教師の資質の向上を図るとともに、児童の学力向上に取り組んできた。また、少人数指導や習熟度別指導、高学年では交換授業を導入して、個に応じた指導の充実を図った。
- ②体験活動：今年度も多くの体験活動を実施することができた。埼玉県警察の方による「薬物乱用防止教室」（6年）や国立障害者リハビリテーションセンターの方による出前授業（5年）、学区内のお寺の住職による地域学習（3年）など、各学年で普段の授業では体験できない活動を実施することができた。
- ③地域との連携：図書ボランティアによる定期的な読み聞かせ（月1回）や小中合同あいさつ運動、見守りボランティアによる登下校の見守りなど、地域の教育力を生かした取組を実施している。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

令和5年度の「教育に関するアンケート」での「子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように取り組んでいる」や「わかりやすく授業を教えている」について9割以上の保護者が肯定的に捉え、保護者の、学校生活や授業に対する関心が高いことが窺えた。今後も「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」の具現化を図り、学校・家庭・地域が一体となった「美原小学校の学び」を推進していく。



## 所沢市立並木小学校

# 「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けた たくましい児童の育成を目指し、安全安心な学校づくりを推進します

＜本年度の重点＞

- ① 確かな学力を育む      GIGA スクール構想の下での主体的な学習の推進
- ② 豊かな心を育む      道徳教育・特別活動・人権教育の充実
- ③ 体力の向上を目指す      体育・健康教育の充実

### 1 特色ある学校づくり概要

本校では、豊かな心を育むために、全校で大根やサツマイモを育てており、学校農園の活動に力を入れている。

さらに、本校の特色として保護者ボランティア活動があげられる。とりわけ、緑化ボランティアの方々には、週1回学校花壇の整備、掲示ボランティアの方には、正門前の校内掲示の作成等、校内環境を豊かにしていただいた。



焼き芋の様子

### 2 具体的な活動の紹介

今年度も、大根を種から育てる活動を行い、小さい種から大きな大根に育つ様子を体験させ、命の学習につなげることができた。大根を育てる際には、元校長先生を指導者として招聘し、児童及び教職員にご指導いただいた。また、学校農園を使って栽培した大根は抽選の末、全児童が自らの手で抜き取り体験する取り組みを行った。

1・2年生は、学校農園でサツマイモを育てた。元校長先生のご指導の下、芋掘りを行い、保護者ボランティアの手も借りて、新聞紙とアルミホイルで芋を包み、焼き芋の準備をした。落ち葉掃きボランティアの保護者が集めた落ち葉を燃やして、焼き芋を作り、食べる体験を行った。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も、学校農園での豊かな学習活動、体験活動を工夫して行うことができた。本校の学区は緑が少なく、自然に触れ合う体験がとても重要である。今後とも発展させていきたい。また、ボランティア活動も活発に行うことができ、新しいボランティアの輪も広がった。安全安心な学校づくり、豊かな環境や体験活動のために欠かせない存在となっている。

課題は、ボランティアとして学校を支えてくださる地域の方とのつながりを広げていくことである。つながりを広げ、深めていくためには、職員や管理職のコーディネートが重要となっていくが、小規模校で職員が少ない中、業務負担も考慮しながら進めていく必要がある。

## 家庭・地域と共に

# 「子供たちの未来を拓く力を育てる学校づくり」を推進します

### 1 特色ある学校づくり概要

本校では、目指す学校像に「～昨日より今日、今日より明日へ～大人も子供も『学びと成長』を大切にす  
るチーム中央小」を掲げ、家庭・地域と共に教職員の  
総力を結集して日々の教育活動に励んでいる。そして、  
子供たちのために教職員は、切磋琢磨し、家庭・地域  
が信頼を寄せる学校づくりを目指している。地域の方  
々には、児童の学習支援、安全、環境など様々な支援  
をいただいている。今年度は新型コロナウイルスが5類に移行したことでコロナ前に行ってきた活動を  
精選し、方法を改善しながら各学年で実施した。学校応援団コーディネーターと共に本校の教育活動に  
関わる全ての方々の自己肯定感が高まるよう地域と共に歩む学校となるよう努めている。



### 2 具体的な活動の紹介

#### 【地域の人材や施設を活用した学習の充実】

学校応援団の皆様の協力のもと、全学級において、毎週水曜日の朝の時間を利用した読み聞かせや1  
年間を通した農作物の栽培体験を行っている。また、1年生の昔遊びや3年生のうどん作り等の体験も  
今年度は実施する予定である。6年生は社会科「今に伝わる室町文化」の学習で、学校応援団の協力  
のもと、茶道と華道の体験学習を行った。茶道体験では茶道のおもてなしの文化を知り、一人一人が細か  
な作法を丁寧に教わりながら、実際にお茶をたてた。華道体験では、一人一人がアジサイやトサミズキ  
などの季節の花を、学校応援団の皆様のアドバイスをもとに生け、完成した作品を校内に飾った。地域  
の方々の協力により、普段の授業では体験できない豊かな学びをする貴重な体験となった。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

茶道体験を行った6年生児童は、「茶道のいろいろな作法をわかりやすく教えてもらった。一つ一つ  
の動きに意味があることが分かった。」「お茶は苦かったけど、香りがよくておいしかった」等、日々の  
教室の授業では知ることができないことを、体験を通して学ぶことができた。体験授業に協力いただ  
いた地域の方からは、「子供たちがとても積極的に体験学習に取り組んでいた。協力した甲斐があった。子  
供たちから元気もらった。」という感想をいただいている。本校の「特色ある学校づくり」の重点であ  
る体験活動を通して、学校、家庭、地域の連携をより強固なものとなっている。

# ふるさとにします みんなの学校 松井

— 笑顔があふれ 花が咲き 歌声ひびく 松井小 —

汗を流して、たくさん学んで、たくさん遊んだところが、子どもにとって「ふるさと」になります。学校運営協議会を中心にPTA、学校後援会、学校開放運営委員会と連携して、子どもの「ふるさと」になるよう、“地域とともにある学校づくりを進めています。

## 1 特色ある学校づくり概要

- ①「ふるさとにします みんなの学校 松井」を目指し、学校運営協議会制度を中心に、学校開放運営委員会、学校応援団とともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、連携・協働を図りながら子どもたちの豊かな成長を支えていく。
- ②特色のある施設を活かし、多様な教育活動を推進する中で、学ぶ意欲と自信を育て、確かな学力を育成する。
- ③今年度、学校課題研究として「非認知能力」の育成を設定し、教職員で少人数のプロジェクト・チームを組織し、主体的に研修に取り組む体制を整備していく。



【松井小ふらっとサポーター】

## 2 具体的な活動の紹介

- ①学び創造アクティブ PLUS で示された45分の流れを基本とし、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るとともに、自己肯定感を高める支援・指導を行っている。  
また本校は、ICTを積極的に活用している。具体的には、児童の考えを集約し、分類する活動や学級活動において教師及び児童の学級会準備に対する負担軽減のため、一人一台端末を活用した話し合い活動を展開している。
- ②今年度、コミュニティ・スクールのモデル校の指定を受け、学校・家庭・地域で学校経営方針の承認や学校の諸課題について熟議を図っている。特に、「あいさつ」と「不登校支援」を重点課題とし、地域と学校で取り組む姿に具体策について熟議を行った。挨拶については「松井小あいさつ5か条」を設定し、保護者・地域へ発信している。不登校支援については、教室に入れにくい子へのサポートや学習支援、休み時間の見守り等幅広い支援ができるよう12月より「松井小ふらっとサポーター」を立ち上げた。
- ③今年度、新型コロナウイルス感染症による制限がなくなり、多くの体験活動や地域行事が復活した。体験活動については、昨年度も実施した「サツマイモ、サトイモの栽培や収穫（ひまわり学級、1年、3年）」、「浦和レッズハートフルクリニック（6年）」、「租税教室（6年）」に加え、「昔遊び（1年生）」、「うどんづくり（4年生）」を実施した。また、総合的な学習の時間において、「セブンイレブン（4年：SDGsの視点での商品開発）」、「ロッテ（6年：商品開発）」、「地域包括支援センター（5年：高齢者福祉）」民間企業や福祉機関と連携した授業を展開した。中学校区内の学校間との連携や交流も充実し、共に役割を担い、子どもを育成する「地域とともにある学校づくり」を目指した。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校後援会をはじめ、学校応援団等による様々な教育支援を受け、「地域の子どもは地域で育てる」地域立の学校として、子どもたちがこの松井地区で生活し、学ぶことを誇りに感じる日が来ることを信じている。今後も社会に開かれた教育課程の実施に加え、子どもも大人も学び合う教育体制を整え「全ては子どもたちのために」教育活動を推進していく。

- 「子どもたちから、何気なく声をかけてもらい、元気をいただいている」（パトロール隊の方より）
- 「学校には、いつも花がたくさんあってホッとする」（保護者より）
- 「きれいな松井小を、これからも大切にしていきたい」（6年女子より）

## 地域とともに歩む学校づくり

— 「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成を目指して —

### 1 特色ある学校づくり概要

本校では、学校教育目標に、「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成、目指す児童像として「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を掲げている。

また、学校づくり宣言は「地域とともに歩む学校づくり」であり、「地域の学校」として、地域や保護者から信頼される開かれた学校づくりと学校教育目標の具現化に向け、「ともに学び、実践する学校」を合言葉に、以下の教育活動に取り組んでいる。

- ◇「生きる力」を育む教育の推進
- ◇学校・地域の組織や地域の教育資源や人的資源を生かした教育活動の推進
- ◇安全・安心な学校・地域づくりの推進



育てた作物の収穫



お囃子体験

### 2 具体的な活動の紹介

- ・学年ごとに、植物や作物の種類を決め、学校の花壇や畑を活用して植物や作物の植栽を行った。また、その都度、水やり、除草、収穫などの世話をを行うことができた。
- ・スクールガードリーダーの方や、地域の見守り隊の方々と6月と11月に地域連絡協議会を通して、共通理解を図り、日頃から児童の登下校時の安全について、連携、協力し合あうことができた。
- ・5年生の総合的な学習の時間に、稲の栽培を行った。田植え、収穫の際には地域の方を講師としてお招きし実際に指導をしていただいた。一人一人が体験的な取り組みを通して、理解を深めることができた。
- ・4年生の総合的な学習の一環として重松流祭囃子新井町囃子連の方をお招きし、体験授業を行った。
- ・学校応援団から提供していただいた花の苗を、低学年児童や、特別支援学級の児童が花壇に植栽し、敷地内に花がある環境を構築することができた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・田植えや作物・花苗の植栽、世話などの実体験を通して、授業を行うことができた。そのおかげで、作物や植物に愛着を持ち、自主的な活動を実現することができた。
- ・なかなか経験できない「田植え」や「お囃子体験」など、地域の方の力をお借りして児童に貴重な体験をさせることができた。保護者からも「貴重な体験ができてありがたい。」という声をいただいた。



## 地域とともに歩み、自信を持って誇れる

### 『ふるさと』の学校づくり ～安松小学校～

#### 1 特色ある学校づくり概要

「地域とともに歩み、自信を持って誇れる『ふるさと』の学校づくりを推進します」をテーマとし、

I 「地域の人々に学ぶ」

II 「地域の自然に学ぶ」

III 「地域の文化に学ぶ」

を特色ある学校づくりの基本理念とし、児童、保護者、地域の実態に合わせた体験活動を通して「生きる力」の育成を図った。



#### 2 具体的な活動の紹介

##### (1) 開校50周年記念行事の活用

児童が主体の活動になるよう、地域の方、PTA、教職員がメンバーとなっている事務局で会議を重ね、式典を行った。記念行事として、本校卒業生である小須田潤太選手をお招きし、挑戦することの大切さを学んだ。その他にも、地域の方のご協力のもと、アマチュア無線体験を行い、遠くに住んでいる方と繋がり自己紹介などを通して会話をした。また安松小学校の好きなところを一人ひとり振り返り、ふるさと愛を確認し、記念行事を通して、地域の人材と交流しながら、地域の人に学び、地域の方々と共に50周年を祝うことができた。

##### (2) 「特別活動」の学校研究をスタート

本校では今年度より、特別活動の研究に取り組んだ。研究組織を立ち上げ、研究授業を通して教職員全員で協議し、授業改善や、短冊ボードなどの環境面を少しずつ整えた。また安部恭子先生にご指導をいただき、今後の課題等を含め学びの多い研修会の機会をいただいた。学級会の授業だけでなく、記念行事のためにマスコットキャラクターを作成したり、高学年児童が会を企画・運営し、自分たちで進行したりするなどの機会をたくさん設け、児童主体の体験活動がより多くできるようにした。

##### (3) 自然体験活動の実施

今年度もビオトープ活動を継続した。月に一度、学年単位で自然観察や環境整備活動を行うなど環境教育を進めている。劣化してしまった鳥小屋も撤去したので、跡地を花壇と畑に整備した。

#### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

<子供の声>

50周年という記念の年に、学校をみんなと一緒にお祝いできたことがうれしかったです。

たくさんの記念行事がありましたが、パラリンピック選手、小須田さんの言葉が一番心に残っています。

## 所沢市立和田小学校

ほめる教育を推進し「明日も来たくなる ぬくもりのある和田小

～子どもが幸せになれる学校づくり～」を目指します

### 1 特色ある学校づくり概要

#### (1) 特色ある学校づくりの構想

- ①「ほめる教育」の推進
- ②実態を把握し「わかる授業」の展開(学力向上)
- ③子どもの心に寄り添う温かな言葉がけ(豊かな心)
- ④自分の命と身体を大切にする(体力向上)
- ⑤考える力や豊かな心の基盤となる体験学習の推進
- ⑥保護者・地域・関係団体との協働体制の推進

#### (2) 具体的な方策

- ①授業研究を中心とした教師の授業力の向上
- ②昨年度までの研究(体育)の改善と深化
- ③新しい生活様式に基づいた授業展開の工夫
- ④ICTの効果的な活用と情報の共有
- ⑤定期的な実態調査と組織的な対応
- ⑥体力の維持を図る活動の工夫
- ⑦教育課程に沿った計画的な体験活動の実施



【体育】ICTを効果的に活用した授業の実践  
授業研究発表

～一人一人のよさや可能性を拓く～

### 2 具体的な活動の紹介

#### (1) 指導を深める授業の充実

- ①児童のよいところを称賛し、学習のねらいを具体的に提示し、児童の言葉でまとめる教科指導
- ②少人数指導やTTによる学習形態の工夫及び学習支援員等の計画的な配置
- ③ICTを効果的に活用した学習活動

#### (2) 豊かな心の育成

- ①なかよしアンケートの実施と情報の共有
- ②児童会を中心とした毎朝のあいさつ運動
- ③心のエネルギープロジェクトの推進
- ④特別活動、縦割り行事の工夫と実施
- ⑤学習規律の徹底
- ⑥子どもに関する情報共有、共通行動による指導体制

#### (3) たくましい身体の育成

- ①活動内容や展開を工夫し、ICTを効果的に活用した体育授業・朝会の工夫と実施
- ②心の健康と体力維持のための、休み時間の分散型運動場・体育館使用
- ③家庭・地域との連携

#### (4) 体験活動の推進

- ①実際の体験と疑似体験等を取り入れた体験活動計画の見直し
- ②ICTを効果的に活用した体験活動の実施
- ③委員会活動等の日常活動の充実と、活動内容の周知による体験への意欲の向上
- ④点字・ゴールボール等の体験と、福祉学習の実施

#### (5) ボランティアの活用

- ①学習での見守り活動
- ②校地内外の緑化活動
- ③登下校中の見守り活動

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

地域や保護者の皆様に、参観や懇談会や運動会、校内音楽会等の行事参観、また、学校だよりやホームページを通し、本校の取り組みについてご理解いただける機会になっている。保護者の皆様からも感想や感謝の言葉をいただいている。目指す学校像を具現化し、特色ある学校づくりのため、保護者の皆様から、ご協力をいただきながら学校と家庭、地域と連携して行うことができたと思う。

# 笑顔いっぱい、夢いっぱい、わくわく牛沼小学校！

## 1 特色ある学校づくり概要

本校は「花と緑と豊かな心」を校訓と掲げ、学校・保護者・地域の信頼関係を培い、三者の連携を図りながら子ども達の豊かな感性と生きる力を育む取り組みを実践している。

- ・安全で美しく豊かな教育環境づくりの推進  
(安全教育・掲示物・清掃)
- ・確かな児童理解に基づいた個に応じた指導の充実  
(積極的な生徒指導)
- ・「報告・連絡・相談」を基盤に、協働による明るい職場  
(リスペクトを忘れない)
- ・家庭、地域、関係諸機関と適切に連携し、信頼される学校  
(情報発信・地域行事参加)



後援会の農家さんに毎年お世話になっているサツマイモの収穫体験



図書ボランティアさんにもお手伝いいただき、図書管理の電子化を進めています

## 2 具体的な活動の紹介

### (1) 授業の充実

『わかった』『できた』に喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成」をテーマに、二つの仮説を次のように立て、学校課題研究を行った。【仮説①】「算数科における授業展開の中で、互いの考えを、対話を通して交流し合う時間を意図的・計画的に設定することで、『わかった』『できた』を実感する児童を育成できるだろう」、【仮説②】「授業の流れを統一することで、見通しを持ち、自ら学ぶ児童を育成することができるであろう」。児童にとって学習に取り組む必要感のある課題提示や個別最適化につながる指導・支援、自己肯定感の向上につながる振り返りの充実、ICT教材や機器の効果的な活用等に取り組んだ。また、子どもたちに課題を自己決定させる「課題発見能力」の育成の大切さを共有した。

### (2) 体験活動の充実

生活科・総合的な学習の時間において、地域の方や関係諸機関と連携し、農業体験、福祉体験、昔遊び体験、栽培活動等を実施した。心を豊かに生き生きと活動する牛沼っ子の育成につながった。

### (3) 学校図書館の電子化や本の読み聞かせの充実

学校図書館の本の維持管理や季節ごとの壁面装飾、読み聞かせ等の読書活動は、長年のボランティア支援による本校に根ざした取り組みである。本年度は、図書管理の電子化に取り組み、子どもたちの読書量確保につながった。読み聞かせでは、真剣に聞き入る姿・笑顔で喜ぶ姿の醸成につながった。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○おいもほりでとれたさつまいもをスイートポテトにして食べました。おいしかったです。

(子どものことばより)

## 地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は、所沢市の東端に位置し広い農村地帯と区画整理された住宅街を学区内に持つ。保護者や地域住民には本校の卒業生も多く、学校の教育活動に苦勞を惜しまず、協力をしてくださる地域性がある。今年度も校長の経営方針のもと「地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校」の実現を目指し地域学習をおし地域と共に歩み、地域に愛される教育活動を実践した。



再開したぶどう園での体験学習

### 2 具体的な活動の紹介

#### ① 体験的な学習の充実

2年生ではぶどう園やいちご園の見学、サツマイモの碑等地域めぐり、3年生では柳瀬民俗資料館見学、縄ないなど体験的な学習を行った。

#### ② 安全安心、潤いのある教育環境の整備

万一の大地震を想定し、柳瀬地区3校合同による合同引き渡し訓練を実施した。大災害の時に、どのように児童生徒を安全に保護者に引き渡すかを、実際の場面を想定し行った。学区の広い本校で児童をどのように安全に避難させるか課題が見えてきた。

季節に応じた花の苗を購入し、委員会の児童やボランティアと共に花いっぱいの花壇を維持することができた。また、今年は校庭に『小トトロ』を一匹追加制作した。

#### ③ 親子参加型授業について

各学年が親子参加型授業を実施した。PTAの学年委員が各担任の協力のもと計画を練り、学年委員を中心に指導者を招聘し『学ぶ楽しさ』のある授業を実践した。1年生「親子給食」2年生「車いす・白杖体験」3年生「うどんづくり」4年生「スタンダード誕生学」5年生「インターネットとの関わり方」6年生「いのち」の授業など「親子ならではの」授業が展開された。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

新型コロナが5類扱いとなり体験活動や地域学習を充実させることにより、地域全体で、心豊かな子供たちを育成しようとする意識の継続が図れた。

学校評価では「開かれた学校作り」「学力向上」「豊かな心の育成」「体力向上」「児童との信頼関係」「教育相談」「教育環境」「家庭学習」「思いやりの心」「教育相談」の項目で昨年より肯定的な評価をいただいた。



## 地域に根ざした生き生きとした学校づくり

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は「思いやりのある子」「たくましい子」「すすんで学ぶ子」を学校教育目標に掲げ、「全教職員の持ち味と創意を活かして組織力・学校力を高め、子どもと保護者・地域の願いに応える特色ある教育の推進する」という学校経営方針のもと教育活動に取り組んでいる。そして、「子どもも大人もさわやかに登校し、元気に活動し、笑顔で下校する学校」を目指す学校像として、以下具体的に取り組んできた。



授業後の研究協議

### 2 具体的な活動の紹介

所沢市〈学び創造アクティブ PLUS〉を推進し、「はじめに子どもありき」の視点に立った児童の育成を目指し、Chromebookを活用した活動の工夫に取り組んだ。昨年度に引き続き東京学芸大学名誉教授の平野朝久先生のご指導に加え、今年度より昭和女子大学特命教授の岩間健一先生にもご指導いただき、教職員の指導力向上を図ることで、児童の学力向上につなげていった。



ボランティアによるお花植え

また、環境教育を推進し、校舎内外における“安全で美しい環境”の整備を進めた。スクールガーデナーや庁務手によるどんぐりの森の整備や校舎内の修繕を行うとともに、今年度は“お花植えボランティア”を募り、森田園芸の協力・指導のもと、正門周辺の花植えを不定期に実施した。“安全で美しい”に加えて、“華やかで子どもたちが季節を感じることのできる”環境整備を行うことができた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・学習が身に付くように、色々と工夫をしてくださってとてもありがたい（学校評価より）。
- ・お花植えはとても楽しかった。学校の活動に参加できてよかった（ボランティアの方のご意見）。
- ・PTA活動の一環として“安全で美しい環境”のために除草作業やトイレ清掃を行ってくださった。保護者の方々に本校の教育活動を知って頂く良い機会となり、学校の「見える化」につながった。
- ・スクールガーデナーさんと庁務手が定期的に樹木剪定を行っていることで、地域からも見通しのよい、開かれた明るい学校が維持できている。今後も整備を継続していく。
- ・今後も「～場を清め、礼を尽くし、時を守る～思いやりのある子・たくましい子・すすんで学ぶ子」の具現化を図り、学校・家庭・地域が一体となり、児童一人一人を確実に伸ばす教育活動を推進する。

## 地域に根ざした体験活動と読書活動を重視し 心豊かな児童の育成を目指します

### 1 特色ある学校づくり概要

本校の学校教育目標は、「心豊かでたくましい子の育成」である。「安心感を持って学びに向かおうとする児童の育成」を研究主題とし、非認知能力の育成(具体的には、意欲や楽観性、忍耐力、自制心、コミュニケーション能力、共感性など)を伸ばすことを目指している。

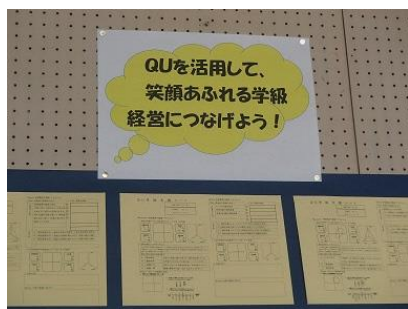
また、地域に根ざした体験活動や多くの人々とのふれあいを通して、児童に感動を与える教育課程づくりを重視し、心豊かでたくましい児童の育成を目指している。



だいこんの収穫(3年生)

### 2 具体的な活動の紹介

非認知能力の育成は、非常にあいまいで成果や取り組みの効果がわかりにくい。そこで図書文化社・情報センターの「ハイパーQ Uテスト」を実施し、児童の学校満足度、学校生活意欲度を測り、個々の学習意欲や友達関係、学級の雰囲気はどう感じているか等を数値化して分析した。児童の目に触れない場所(印刷室)に全学級のQ U結果を掲示し、各クラスの実態を把握できるようにした。



また、社会的にコロナが落ち着いてきたことを受け、各関連施設との交流学习を復活させ始めている。富岡中学校、富岡保育園、所沢市立キャンパス(福祉施設)、消防署富岡分署、富岡まちづくりセンター、富岡図書館分館等の公的機関や、地域のお茶工場、企業、農家等との交流連携を軸に、児童の学びの地域共同体づくりを図っている。

(掲示) Q Uを活用して笑顔あふれる学級経営につなげよう

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

Q Uテスト結果を踏まえ、特定の数値が低い児童には個別の声かけをしたり、交友関係の広がりにつながるような学級活動を取り入れたりしながら、他者と関わる場や関わり方を体得させている。どの子にどのような支援をしたり、体験をさせたりすればよいかが従前よりも明確になったため、Q Uテストの実施は担任から歓迎されている。非認知能力の育成には時間がかかるので、引き続き取り組んでいく。

## 所沢市立西富小学校

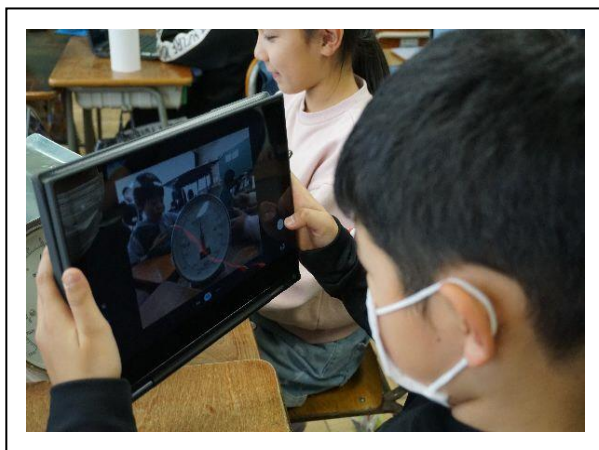
「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を育成し、  
子どもたちに「夢と希望」を育み、保護者・地域から信頼される学校

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は、明治9年、宝泉寺を仮校舎として開校し、今年度147年目を迎えた歴史ある学校である。地域には、畑や茶畑が広がり、武蔵野の面影を残す雑木林が点在している。地域の方々の人柄は温かく、そこで育った子どもたちも素直で子どもらしい子が多い。特色ある学校づくりとして「子どもたちに『夢と希望』を育み、保護者・地域から信頼される学校」を宣言し、地域に根差した学校を目指している。

### 2 具体的な活動の紹介

今年度は、「ICTで思考を深める算数科の授業～西富スタンダード with GIGA スクール～」という研究主題とした。地区の授業研究会では、事前にとった児童のアンケート結果を指導や評価の改善に生かせるように、質問項目を観点に合わせて取ることにした。また、研究協議の柱を「ICTの特性を生かした授業を展開することで、児童の思考に深まりがみられたか」と設定し、地区の先生方と協議できた。仮説として、「ICTを効果的に使う場面を授業内では、主に4つの場面（課題提示・操作する場面・対話する場面・日常生活への適用）で効果的に活用することで、児童の思考がより深まるのではないか。」と設定し授業を進めてきた。子どもたちは、ほぼ毎日chromebookに触り、使い方をマスターしている。ICTの活用で学習意欲が高まっていることも分かった。教職員も、より児童の理解を助ける道具の選び方や指導方法を学ぶことができた。



地域においては、学習ボランティアによる朝の読み聞かせの活動により、子どもたちは、定期的に本に触れる機会を確保できており、落ち着いた1日のスタートを切れている。フラワーボランティアと連携し、今年度は6年生の奉仕作業時に一緒に活動することも計画している。地域の方々や父ちゃんのと共に行うビオトープの管理維持活動を今年度は一月に1度実施できた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

これから変化の激しい社会を生き抜くために学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていかなければならない。その点においては、西富小学校では、温かな雰囲気のある風土の中子どもたちは、伸び伸びと成長している。保護者や地域の方から「子どもたちが作業をしていると話しかけてくれてうれしい。」「先生方が、一緒にビオトープの管理維持にこんなに参加してくれて感動した。」と声をいただいた。子どもたちの純粋で素直な心持が教職員としては、何よりの励みとなっている。



# 子どもが夢をいただく学校

— 子ども一人一人の心の中に「ふるさと中富」をつくります —

「ふるさと」とは、子どもたちの学びの出発点を象徴的に表す言葉です。  
「自分には自分のよさがある。こんな大人になりたい。将来、こんな職業につきたい。」  
子どもが夢をいただく学校づくりを推進します。

## 1 特色ある学校づくり概要

本校の「目指す学校像」は、<子ども一人一人の心の中に、「ふるさと」が育つ学校>である。三富開拓という歴史を持つ中富地区にあり、豊かな自然と郷土を愛する住民に支えられている。地域性に着目し、子ども一人一人の心の中に「ふるさと」を作る教育活動を推進し、全校挙げて特色ある学校づくりの実現を図っている。

## 2 具体的な活動の紹介

三富開拓の歴史を学んだ児童（H16 卒業）が音楽担当教師と作成した本校独自の「三富おろし」という曲がある。これを6年生が伝承し、音楽会等で演奏している。毎年6年生から5年生へと伝承している。楽譜は存在せず、実技指導、口伝で伝えている。6年生を送る会で、5年生が演奏を初披露し、6年生への感謝を伝える。

また、地域の農家の方の協力を得て、さつまいもの苗植え、収穫等を行っている。地域の特色を生かし、児童は「ふるさと中富」を感じている。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本校は三富開拓の地域にあり、屋上は三富の様子を見学できる場所になっている。市内だけでなく市外からも小学生が見学に来たり、地域の学習グループが見学に来たりして、三富地区、中富地区について学ぶと同時に、親しみを持っていただいている。

地域の方は大変協力的で、子どもたちのためにと力を貸していただけるため、多くの体験活動をしたたり、ボランティアでの見守り活動をしていただいたりしている。

給食に食材のご提供をいただいている農家のお力添えをいただき、さつまいもの苗植えから収穫までを体験する活動をしている。自分達が収穫したさつまいもが給食に使われ、心に残る活動になっている。



6年生による「三富おろし」の演奏で1～5年生が合唱をする。校内音楽会のクライマックス。



2年生のさつまいもの収穫の様子。1年生、特別支援学級の児童とともに、苗植えや芋掘りの体験学習を行っている。

# 保護者・地域と一体となって 豊かな心で学び続ける児童を育てます

・主体的に学ぶ心 ・相手を思いやる心 ・たくましい心

## 1 特色ある学校づくり概要

昨年に引き続き、学校経営の基本理念を「真の学び舎は子供が主役」とし、学校・家庭・地域が子供たちのよき理解者・支援者となることを目標に、特色ある学校づくりを進めてきた。また、子供たちの確かな学力の向上のために体験活動や開かれた学校づくりに積極的に取り組んできた。また、昨今の気候変動による熱中症対策を中心とした安全安心な学校づくりに努めてきた。



学校農園で大根を収穫する子供たち

## 2 具体的な活動の紹介

### ○確かな学力と豊かな心の育成

児童の確かな学力と豊かな心の育成を目指して、本事業を活用し、体験活動の更なる充実を図った。

第2学年では椿峰図書館分館での国語科の学習や北野天神社、小手指中学校等に協力いただき、町たんけんを実施することができた。第3学年では地域人材を活用したそろばんの授業、昔のくらし体験を実施した。第4学年では社会福祉協議会等をゲストティーチャーとして福祉体験を行った。第5・6学年では、所沢市立教育センター職員による情報モラル教室など学年の指導計画に沿った内容をゲストティーチャーに指導していただいた。

学校農園「緑のファーム」では、地域のボランティアの協力を得て、さつまいもやじゃがいも、へちま等の児童が学習で使用する農作物とともに、綿花やかぼちゃ、大根等の栽培も行った。このことから子供たちの学校農園への興味・関心を高めることができた。また、収穫した野菜を自校給食の食材として活用することで、学校食育にも繋げることができた。

### ○地域連携・開かれた学校づくり

今年度は、保護者に対して、運動会、授業参観・懇談会、音楽発表会、持久走大会等で学校を開くことができた。地域に対しては、本事業の予算を活用し、学校評議員会、こてさしコミュニティー推進委員会を再開することができた。これらのことから、学校や子供たちの様子を伝えるとともに、家庭・地域での子供たちの様子等の情報と課題を共有し、豊かな心で学び続ける子供たちの育成に努めた。中でも、運動会は、保護者のみならず、地域の方も招待し、コロナ禍前の活気あふれる行事となった。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

新型コロナウイルス感染症が感染症5類に移行されたことにより、体験活動や保護者・地域の方の学校行事の参加も増加した。子供たちは初めての遠足、音楽会等、様々な初めての体験することができた。子供たちが積んできた体験は、聞いたり、読んだりした知識より大変貴重なものになったり、まさに「百聞は一見にしかず」であった。

学校行事に参加した地域の方からも、「子供たちの活気にあふれた様子を見ることができた。」「今年は、学校の様子もよく分かった。」という声をいただくなど「特色ある学校づくり」を更に推進することができることが実感できた1年間であった。

今後も、家庭・地域とともに、小手指小学校の特色をさらに生かした活動となるよう計画を立て、一人一人の子供の新しい学びや体験活動を充実させていきたい。

## 「丘の学び舎」やさしく、かしこく、元気な子の育成 — 瞳かがやく 笑顔あふれる 楽しい学校 —

- 体力及び学力のさらなる向上を目指し、組織的・継続的な授業改善を図る。
- ICT 機器を含めた教材・教具を工夫して教職員の授業力を高める。
- 農作物を育てる体験活動を通して、「豊かな心」と「たくましい体」を育てる。
- 保護者、地域のなかから教育的な人材を活用し、多様な教育活動を推進する。

### 1 特色ある学校づくり概要

#### ① 西部地区小学校体育授業研究会発表

よりよい体育授業の授業改善を組織的、計画的に実施し、技能の向上を図るとともに、運動好きな児童を育てることができた。授業研究会を通じて、他校教員に提案するとともに、教職員の指導力を高めることができた。

#### ② 基礎的基本的な学習内容を定着

本年度は、特に ICT を含めた教材・教具を工夫して教職員の授業力を高めた。児童による授業評価の結果も高まった。

#### ③ 学校農園「ほうさく村ふれあい自然体験農場」

学校農園での学習活動及び農作物を育てる体験活動を通して、「豊かな心」と「食育」に対する意識が高まった。

#### ④ 保護者、地域のなかから教育的な人材を活用

「上小まつり」、「図書サポーター」との連携を行い、保護者、地域の方々との連携を高めることができた。次年度も連携を深め、地域とのつながりを大切にしていく。



西部地区小学校研究会発表会

### 2 具体的な活動の紹介

- ① 西部地区小学校体育授業研究会を11月1日に実施した。外部から指導者を招聘し指導助言をいただくことで指導力を向上させた。積極的に他校の実践を参観し、校内で伝達及び資料提供することで研修を深めることができた。運動好きな児童が増えるとともに、運動技能も高まった。
- ② GIGA スクール構想により導入された ICT 機器や情報通信ネットワークを効果的に活用して学習活動を行った。教職員の ICT 機器活用率も高まるだけでなく、教科の特性を生かした学習で活用することで、習熟も高まった。児童による授業アンケートの結果も高まった。
- ③ 学校農園は、生活科、理科、総合的な学習の時間の教材園として計画的に活用しただけでなく、食育や環境教育等、教科学習以外にも学校農園の活用を図った。
- ④ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、地域との連携を深めることができた。図書サポーターによる読み聞かせ活動を通年行ったり、PTA と連携して「上小まつり」を、夏季休業中には、「子供みこし」にも関わったりすることができた。地域との絆も深まった。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

#### ① 成果

西部地区授業研究会や ICT 機器の活用を実践することで、体力向上や学力の向上につながった。地域との連携を充実させることにより、子供たちの中に、「地域を愛する心」が育まれた。

#### ② 子供・保護者・地域の声等

「体育の授業で鉄棒ができるようになり、大好きになった」という声から多く聞かれた。図書サポーターの方々からは、子供たちの喜ぶ様子が嬉しいという意見が多く聞かれた。



# 「き」れいな学校 「た」のしい学校 「の」びゆく学校

## 1 特色ある学校づくり概要

特色ある学校づくり構想

「き」れいな学校

清潔で明るい校舎、規則正しい生活、落ち着いた学習環境

「た」のしい学校

仲良く生活、元気に活動、真剣に学習、運動

「の」びゆく学校

豊かな心、確かな学力、体力、自律の力、広がる夢

具体的な方策

○地域の教材化と学習活動の連携 ○地域や保護者の学習ボランティアと連携した取組



5年生わら細工づくり体験

## 2 具体的な活動の紹介

○地域の教材化と学習活動の連携

1年 トウモロコシの栽培と収穫 2年 サツマイモの栽培と収穫 3年 蚕の飼育

4年 北野天神の木の写生 5年 田んぼつくりと稲栽培、わら細工体験 5組 大根の栽培と収穫

○学習ボランティア

**全校** PTA やねこの手貸し隊による除草 落ち葉掃き

**学年** 読み聞かせ ミシン学習 花育 田んぼつくり わら細工体験

○その他

学びの場にふさわしい教育環境の整備・充実

➡所沢市G I G Aスクール構想推進に伴い、保管庫鍵棚設置等の環境整備

➡支援員を的確に配置し、基礎・基本の徹底と

➡生徒指導の情報共有の形式を見直し、深い児童理解に基づいた積極的な生徒指導と教育相談の充実

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

(1) 子供の苦手なところや困っていることに目を向け、熱心に支援していただきました。どうやったら伸びるかを様々工夫しながら支援して下さるおかげで、苦手なことができるようになりました。

(2) 保護者による学校評価

「子どもは、楽しく学校に通っている。」

**とてもそう思う59%**

**そう思う31%**

**あまり思わない7%**

**全く思わない2%**

(3) 今年度は通常開催として、指導者を招聘した校内研修ができた。来年度は、教員一人一人の指導力をより一層伸ばしていきたい。

## 子供の笑顔を大切にする学校

— 「授業」「学校の決まり」「自分と友達」を大切にする学校づくりを推進します —

### 1 特色ある学校づくり概要

- ① 総合的な学習や生活科を中心に、環境を生かした学習を進め、体験から学び、環境との共生を考える中で、豊かな心を育む教育活動を展開する。
- ② 学力・体力の向上を目指し、学習環境の充実を図ると共に、職員の校内研修を充実させ、基礎基本を大切にし、子どもたちが学びたくなる場を形成する。
- ③ アフターコロナの中、「できることを工夫」しながら、様々な教育資源を生かし、児童の体験や多様な教育活動の場を増やす。
- ④ 北中会（P T Aに代わる組織）、保護者や地域の「北中小の子どもを守る会」との緊密な連携をとり、安全で安心な学校づくりを推進する。



書きぞめ講師による授業風景

### 2 具体的な活動の紹介

- ① 総合的な学習、生活科において、児童に多くの教育機会を与えるために、教材（生活科：大根種、総合：じゃがいも）などを購入し、学習環境の充実を図っている。
- ② 個に応じた指導の充実のために、書きぞめの指導者を招聘し、一人一人に丁寧に指導を行うなど、円滑に学習活動ができるようにしている。
- ③ 今年度は、新型コロナウイルス感染症の制限が5類に移行され、運動会やたてわり遠足などの行事を通して、異学年交流を図り、相手を思いやる心や助け合う気持ちなど豊かな心の育成を図った。行事に必要な教材等を購入して、できることを工夫しながら活動を進めている。
- ④ 学校農園の活性化を図るため、環境主任が中心となり植物の栽培に取り組んでいる。肥料を購入し、肥えた土づくりに取り組んでいる。また、環境整備のための耕運機や草刈り機の燃料も購入している。
- ⑤ 例年実施している栽培した大根を地域の方へ配り、感謝の気持ちを伝え、地域の方と信頼関係を築いている。
- ⑥ 校内研修で授業の基礎基本の確実な習得を図るために、職員研修を充実させた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

特色ある学校づくり支援事業のおかげで、時期や学習活動に応じて必要なものを速やかに用意することができ、充実した教育活動を進めることができた。特に、今年度も書きぞめ講師を招聘し、一人一人の字の上達につなげることができた。

また、子どもや保護者、地域にとって安全で安心な学校づくりを進めることができた。登下校の見守り隊をして頂いている地域の方々からも「子供たちから元気をもらっています」とのうれしい言葉も頂いている。



## 所沢市立山口小学校

「人のために 教職員も子供も 笑顔で 尊敬し合い（愛）

共に学び合い（愛）感謝し合う（愛） 開校150周年の歴史ある学校」

### 1 特色ある学校づくり概要

- 昨年度までの山口小学校の学習の進め方「山小スタンダード」を継承し、さらに発展させていくために、今年度は、所沢市学び創造アクティブ PLUS アクティブ研究校として、特別活動を核に研究を進めていく。
- 地域の教育力（人材・施設）を総合的な学習の時間等に活かし、教育活動を推進し、児童の創造力・判断力・表現力を養い、「生きる力」を育成する。
- 校内員会での情報交換を密にし、全教職員で共通理解を図り共通行動のもと、一人一人の児童のニーズに応じた教育を行う。



年度当初校内研修

【教員のロールプレイング】

### 2 具体的な活動の紹介

- 年度当初の校内研修では、全教職員による模擬学級会を行い、どの学級も同じように話し合い活動ができるよう、授業の流れについての共通理解を図った。その上で、学級会に必要な教具をそろえた。授業研究会では、KJ法により全教職員が授業に対する意見を伝えあう協議会を設定した。また、國學院大学教授 杉田先生による講義及び指導をいただき教職員の資質向上に資する取り組みを行ってきた。所沢市学び創造アクティブ PLUS アクティブ授業研究会ではすべてのクラスで授業公開を行い、他校の先生方から多くご意見をいただくことができた。
- 委員会活動では、季節に合わせた植物を育て、校内の環境整備を行ってきた。2月には図書ボランティアの方々より地域にまつわる話（狭山湖に沈んでしまった村があるという歴史的背景）を大型紙芝居にして3年、6年の児童に伝えてもらうことができた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

#### 【成果】

- ・全クラスが、公開授業を行い自身の授業の振り返りを行うことができた。「山小スタンダード」が果実に継承され、全教職員が同じ意識で授業を行うことができた。

#### 【子どもの声】

- ・学級会でたくさんの意見をいえるようになったし、みんなの意見を聞くことができたのでよかったです。
- ・学級会で自分たちのクラスをよりよくするためにみんなが考えたことがたくさんできたので良かったです。

## 地域の香りを大切にし、地域と共にある

### 「特色ある学校づくり」を推進します

#### 1 特色ある学校づくり概要

- (1) 人や自然との関わりを大切にしながら「わかった」「できた」「おもしろい」を実感し、生きる力を育む教育活動をする。
- (2) 児童、保護者、地域、教職員が互いに信頼し、潤いのある教育環境を整え、だれもが誇りを持てる学校づくりをする。



植栽活動（園芸委員会）

#### 2 具体的な活動の紹介

- (1) 卒業式や入学式に向けて、パンジーやチューリップの栽培活動（1年生）
- (2) 大根やサツマイモの栽培活動、焼き芋大会（2年生）
- (3) 車椅子、アイマスクと様々な体験活動を取り入れた福祉体験（4年生）
- (4) 田植えから収穫までの稲の米作り体験活動（5年生）
- (5) 環境ボランティアと連携して、四季折々の植栽活動（園芸委員会）と校庭整備

#### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

##### <成果>

- ・地域の指導者を招聘し、児童は米作り体験を通して、食して、食育を学ぶことができた。

##### <児童の声>

- ・脱穀は、かなり力強くふまないと機械が回らないので、とても難しかったです。米作りは楽しいので、次にどんな作業があるか楽しみです。

##### <保護者の声>

- ・日々の教育活動に感謝します。その中で、いろいろな子とかかわったり、失敗から学んだり、体験や経験から学習しているようです。

##### <地域の声>

- ・登校時、門に先生たちがいてくれると、子供たちの顔が明るくなるように感じいつも感謝です。



米作り脱穀(5年総合的な活動の時間)

# 「おはよう」から「さようなら」まで

## 安心して学べる元気な学校

— 「3つのC」(Chance・Challenge・Change)で、

一人一人の「今」を「未来」を大切にせる教育の推進に努めます。—

【Chance】みんなが大切にされ、明日への希望につながる学校

【Challenge】挑戦し続ける力、共に協力し乗り越えていく力を育てる学校

【Change】一人一人の確かな伸びを実感でき、なりたい自分に一步近づく学校

### 1 特色ある学校づくり概要

本年度は、「学校に関わる全ての人を笑顔に」を最上位ミッションとして、家庭、地域との連携を深め、地域に根差した開かれた学校づくり・特色ある学校づくりを進めている。

学校課題研究は、「夢中になって、本気で学ぶ児童の育成～各教科の見方・考え方を生かした横断的・探究的な学びの実現を目指して～」として研究を深めることを目指し、指導者として埼玉大学教育学部 STEM 教育センター准教授 野村泰朗氏を指導者に迎え研究を進めた

今年度より始まった、コミュニティスクールT S Nみらい会議では、①子供たちを真ん中に置くこと、②「行きたい学校・帰りたい家庭・住みたい地域づくり」を推進すること、③子供たちの健やかな成長を支える仕組みをつくり、学びの好循環を生み出していくこと、そのための熟議を行った。

あわせて、学校ホームページの移行を機に、児童の活動を保護者や地域に向けて発信した。学校・家庭・地域・学校応援団等、人と人のかかわりを深める活動も進めていき、信頼される学校づくりを目指し、「おはよう」から「さようなら」まで安心して学べる元気な学校づくりを推進する。



【プレゼン資料を用いた討論会】

### 2 具体的な活動の紹介

校内研修は、昨年度までは所沢市学び創造アクティブ PLUS「ICT等を活用した学習活動」に沿って研究を進めた。ICT機器を活用した授業力の向上に取り組んだことを基に、低学年は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間を核として、教科横断的に問題解決学習に取り組んだ。ICTの活用、問題解決の仕方の習得により、子供たちの未来を切り拓く力の育成を図った。

学校ホームページは、日々の子供たちの活動の様子をアップしている。子供たち発信の記事も取り入れたり、閲覧した記事に「いいね」をしたりと、子供たちを巻き込んだ活用ができています。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

3年生では所沢の特産物狭山茶のアピールプロジェクトとして、子供たちがそれぞれの課題に沿った取り組みを進めた。プログラミングサイトのスクラッチを使ってアニメーションを作成したり、プレゼンテーションソフトを使った発表をしたり、子供たちが夢中になって学ぶ姿が見られた。

保護者からは、学校ホームページについて「つば小なうで毎日発信してくれるので学校の様子がよく分かり、安心できます。」「つば小なうの投稿が毎日楽しみです。」と好評である。



# 家庭・地域の教育力を生かし 子どもたち一人一人の よさを伸ばす学校づくりを推進します

## 1 特色ある学校づくり概要

本校は明治6年に宝玉院を仮校舎として開校した歴史のある学校で、周囲には名産の茶畑が広がるなど、豊かな自然に恵まれた地域である。親や祖父母が本校の卒業生という家庭も多く、本校の教育活動にも大変協力的である。「みんなやさしく かがやいて じょうぶな体 まじめな子」という学校教育目標のもと、家庭や地域とのつながりの深さを生かしながら、信頼される学校づくりを進めている。



糎谷八幡湿地での餅つき

## 2 具体的な活動の紹介

本校の学区内にある糎谷八幡湿地は、所沢市内に残る数少ない田圃である。昨年度より、田植え・稲刈り体験をすることができた。地域の方が多く集まって田植えや稲刈りの作業を協力して行うという体験をすることで、地域の自然の恵みのありがたさや、収穫の喜びを実感することができた。貴重な体験となった。11月には、収穫した米を使用した「餅つき」が、12月の日曜日には八幡湿地での落ち葉掃きが行われた。稲刈りをした5年生だけでなく、来年の田植え・稲刈りを楽しみにしている4年生も参加するなど、地域の行事に積極的に参加する児童も多い。

学校の敷地内にある「むくろじ農園」では、ボランティアの「むくろじ農園協力隊」の方々の支援を受けて、児童が多くの作物を栽培、収穫している。これらを一部給食で使用し、収穫の喜びを全校で共有した。また、「総合的な学習の時間」に地域特産のお茶について学習し、近隣の茶畑で茶摘み体験をさせていただくなど、実際の体験をして学習を深めることができ、自ら積極的に調べる児童の姿が見られた。



茶畑での茶摘み体験

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5月から5類となり、安心して学校の教育活動を進めることができた。昨年度以上に地域の方のご理解とご協力を得て、三ヶ島の恵まれた自然の中で子どもたちが体験活動をすることができた。また、地域の方からは、以前のように子どもたちと関わることを喜ぶ声が多く聞かれた。このような声をもとに、教職員は学校が地域に支えられていることを改めて自覚し、今後も保護者や地域と連携を深め、一体となって教育活動を進めていく。

# 「一人一人が主人公」

豊かな心とやる気・自信を育む 若狭小学校

## 1 特色ある学校づくり概要

子供たちにとって居心地がよく、誰もが認められていると感じられる「子供たちによりよく生きる力を育む」ことを教育活動の中心とし、心身のたくましさ、未来を拓く知恵、ふるさと所沢を愛する心の三つの宝を掘り起こし、すべての子供に未来へはばたかせる力を育てるという自覚と誇りをもって「子供によりよく生きる力を育む学校」を目指してきた。全ての教育活動の中で、一人一人を大切にし、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけさせるよう、特色ある学校づくりを推進した。

### ①よりよく生きる力を育む授業づくり

- ・主体的・対話的で深い学びへの授業改善
- ・所沢市学び創造アクティブPLUSへの取り組み

### ②一人一人を大切にする教育環境づくり

- ・「どうしたの」からはじまる、自己指導能力を育む生徒指導の推進

### ③たくましい子どもを育てる、安心・安全な学校づくり

- ・「いじめ防止基本方針」の理解と方針に沿った実践
- ・教師がお手本、明るいあいさつ、届く声かけ

### ④人とのつながりを大切にし、家庭・地域と一体となって子供を育てる学校づくり

- ・目指す児童像の共有と連携
- ・地域の力を最大限活用した教育活動の充実

## 2 具体的な活動の紹介

○家庭・地域と一体となって子供を育てる学校行事の環境整備

多くの保護者や地域と共に安全に、意欲的に運動会が開催できるよう、用具等の環境を整えた。そのため、コロナ禍以前のように競技が行えた。

○たくましい子どもを育てる、安心・安全な学校づくり

プールサイドに人工芝を敷くことで、滑ったり、切ったりすることなく、安全にプールの学習を進めることができた。



運動会の様子



プールの様子

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○競技が行えて嬉しかった。各ブロック合同競技を行うことができ、活躍する姿が見られてよかった。

○プールサイドがきれいに整い、子供たちが気持ちよくプール学習に取り組めていてありがたかった。

# すべては子供たち一人一人のために

— 子供たちの夢の実現と健やかな成長のために、最善を尽くす学校 —

「林小学校プラットフォーム（基盤）」でわかった！できた！のある授業を実践し、学ぶ喜び、できた喜びを味わわせ、将来「よい（良・善・佳・好）人」となる学校づくりを推進します。

## 1 特色ある学校づくり概要

茶畑に囲まれた農村地域である林地区と、狭山ヶ丘駅に近い住宅や借家が並ぶ地域にある本校には、素直な心と明るい性格の児童の挨拶の声が校庭に響いている。

また、児童は何事に対しても一生懸命に取り組もうとする姿勢が多く見られる。

本校の喫緊の課題は、「学力向上」である。日々の授業の中で「わかった！できた！」のある授業実践を積み重ね、「わかるようになる。できるようになる。」児童の育成を目指した。

## 2 具体的な活動の紹介

児童が安心安全、かつ、楽しく学習することができるよう教育課程の見直しを行い、行事も行ってきた。

まず、教育活動をコロナ前に少しでも戻せるよう環境を整えた。次に、学校公開を実施したり、ゲストティーチャーを招いたりして、少しずつ学校を開くよう心がけるだけでなく、「よい人のモデル」を子供たちに示すことができた。子供たちは、落ち着いて行動し、学習に専念した。各支援員の力も大きく、登校に不安になる児童の心に寄り添い、学年経営・学級経営を助けてくれた。

そして、徐々に各教科で必要な物品の申し出が、分掌主任から伝わるようになった。運動会や縦割り班活動で必要なものを購入し、人と人との関わりを味わい「よい人」になるための支援をしてきた。



特別支援学級の図工の授業

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

児童は運動会、音楽発表会、学校まつりを通して、「うまくできることができた。」「来年は6年生のようなことをしてみたい。」と達成感を得られることができた。また、保護者からは「行事が戻ってきた感じがありがたい。」とあった。今後も児童が夢を持つことができるような教育活動を進めていきたい。



音楽発表会の様子



# 元気いっぱい 花いっぱい 笑顔あふれる みんなの宮前小学校

## 1 特色ある学校づくり概要

【みんなの宮前小学校】の実現のために、宣言文の三つの視点【元気いっぱい、花いっぱい、笑顔あふれる】で、特色ある学校づくりを推進してきた。

### (1) 視点1【元気いっぱい】

- ①安心して活動できるようにする
- ②活力ある学習活動ができるようにする

### (2) 視点2【花いっぱい】

- ①体験活動を通じて心を育てる
- ②地域と連携して安全で美しい教育環境を整備する

### (3) 視点3【笑顔あふれる】

- ①子供たち一人一人のよさを伸ばす
- ②支え合う集団をつくる
- ③夢や目標に向けて努力できる



点字体験



団旗

## 2 具体的な活動の紹介

### (1) 児童会活動の充実

コロナウィルス感染症の5類への移行により、集団活動への規制が緩和されることに伴い、児童会活動を活発に取り組み始めた。その一環として、全校児童の団結力を高めるために、団旗を作製した。

### (2) 福祉学習の充実

指導者を招聘し、点字体験を行った。また、国立リハビリセンターを訪問し、車いす体験、アイマスク体験等の様々な取り組みを行った。様々な障がいに対する児童の認識が変容し、障がいのある人も共に生きられる社会の実現に向けて意識が高まった。

### (3) ボランティアとの連携

本校では、花や環境整備を行う道具を購入している。環境が整備され、花がいつもいっぱいの宮前小学校が実現されている。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「元気いっぱい」で「笑顔あふれる」姿を多く見せてくれた。また、1年を通して、花壇から花が消えることない「花いっぱい」の学校となった。今後も地域からは、学校との連携を望む声が上がっていることから、今後も地域連携を推進していく。

# さわやかな挨拶 心に響く合唱 地域に根ざす学校

— 所中三本柱 —

## 1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「自立・共生・貢献」、教育理念「はじめに子どもありき」のもと、「能動的な学習者としての子ども観」に立った授業を日々実践している。その中でも、所中三本柱「挨拶・合唱・ボランティア活動」を大切に、生徒のよさや可能性を伸ばしている。また、協力的な地域の方々の支えもあり、多くの教育活動を実施でき、協働体制を築けている。今後も、特色ある学校づくりを通して、誇りに思う（家族・地域に誇れる）学校を目指していく。また、学校・家庭・地域が一体となり、各小学校との連携も図りながら、子どもの主体的な学びを実現している。



合唱祭 所沢市民文化センター ミューズ

## 2 具体的な活動の紹介

- (1) **さわやかな挨拶**・・・今年度も、毎月第1金曜日に「地域ぐるみのあいさつ運動」を位置付け、所沢小・明峰小にてあいさつ運動を実施した。子どもたちにとっても卒業した母校で、中学生としての姿を見せることができ、意欲的に参加できた。また、地域の方々や保護者、小学生も一緒になり実施する機会もできた。進んであいさつする意識の醸成を図ることができた。
- (2) **心に響く合唱**・・・今年度は、所沢市民文化センターミューズで4年振りに合唱コンクール形式で開催した。久しぶりのコンクールで、生徒の素晴らしい歌声や演奏がミューズに響き渡り大成功に終わることができた。所沢中学校の合唱という文化を継承することができた。
- (3) **地域に根ざす学校**
  - ① 地域の教育力の活用・・・職業講演会では、所沢市に関わりのある8つの企業から講師を招聘し講演会を行った。また、地域における職場体験（70事業所）も実施することができた。
  - ② 学校から地域へ・・・総合的な学習の時間では、各学級が所沢をテーマに探究活動を実施した。地域への取材を行う等、自ら地域に出向くことで、学びを深めることができた。地域ボランティア活動（地域清掃、所沢まつり、各町内会行事、ベルマーク集計等の活動）もコロナ禍以前のように実施することができた。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの主体的な学びを実現することができた。今後も連携を図りながら、工夫を凝らした活動を考え、ふるさと所沢を大切にする生徒の育成を図ってきたい。「子どもたちのボランティア参加で、地域が助かっています」などの声をいただいた。



## そこにいる皆を主役に

# 「誰もが安心して過ごせる学校」を創ります

### 1 特色ある学校づくり概要

本校における特色ある学校づくりは、学校教育目標を具現化するための方策として、学校の主役である生徒を中心に捉え、保護者や地域との連携を密にしながら、様々な教育活動をとおして、特色ある学校づくりを推進した。

### 2 具体的な活動の紹介



令和6年度合唱コンクール@ミューズ

#### (1) 研修部を軸にしたチームで進める授業改善

週1回定例の研修部会を中心に、『シントコロザワ』のミライをつくる」を研究主題に総合的な学習の時間（探究学習）を中心に授業改善を進めている。また、生徒が自ら考え、表現し、学ぶ力を得るために、対話により相手の個性を認めることができる「対話型芸術鑑賞」を定期的に行っている。これにより、生徒同士の温かな人間関係を醸成されている。

#### (2) 美しく、安全、安心な学校環境づくり

保護者、保護者OBで組織している「ひまわりの種の会」をはじめ、学校環境の整備活動にお手伝いをいただいている。また、安全・安心な学校と地域づくり推進支部、新所沢地区青少年を守る会と連携した見守り活動を行っている。

#### (3) 学校行事の工夫

今年度は所沢市民文化センターミューズの大ホールで合唱コンクールを実施した。本校の合唱は伝統があり、生徒だけでなく学校に関わる人たちの期待は大きい。学校行事として、生徒の活躍や成長が分かるように活動を工夫している。美術部生徒による制作物の掲示、その歌声だけでなく、潤いのある学校行事づくりを推進している。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

生徒が主役になる授業改善が進むとともに、学校行事でも生徒主体の活動が計画され、実施が進められている。さらに、生徒の活動が地域に広がり、再びつながりを持つことができている。また、保護者からは「子供が身体も心も健やかに成長できたのは、ご指導下さった先生方のおかげです。娘は学校が楽しいと言って、通ってくれています。それが何より嬉しいです。」との声をいただいている。

『 はじめに子どもありき 』の理念のもと、  
『 未来を切り拓く生徒の育成 』を目指し、  
『 本気笑顔体験できる美原中学校 』を推進します。

## 1 特色ある学校づくり概要

体育祭・美原祭（合唱コンクール）などの学校行事、校外学習・林間学校・修学旅行などの学年行事がコロナ禍以前の平常に使い形で実施することができた。また、今年度は【能動的な学習者の視点に立った授業づくり】をテーマにして、「子どもとは、本来よくなりたい、できるようになりたい」と願っている存在と捉える子ども観の研究に、積極的に取り組むことができた。学校行事や研究を通して、本気



美原祭の様子

の笑顔体験できる学校づくりに向け、取り組みをすすめることができた。

## 2 具体的な活動の紹介

- ① 『 学校だより・学校HP 』で、特色ある学校づくりの活動・成果等を伝える。
- ② 『 能動的な学習者の視点に立った授業づくり 』の講演会【教職員向け】の講師を招聘。校内研修や講演会を実現し、研究授業の指導講評をいただく。
- ③ 美原祭（合唱コンクール）の保護者への公開  
2階席を保護者席にして、午前中の7組、1・2年生、午後の3年生の発表を保護者に公開した。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学区小学校や地域自治体との連携は、小中連携推進委員会やPTA地区別懇談会、パトロールなどを通じて実施できた。また、学校評議員会を開催し、学校の取組の様子を伝えることができた。

体育祭・美原祭（合唱コンクール）など多くの学校行事がほぼ制限なく開催でき、保護者や地域と直接交流する機会が増えた。保護者の方々からは子どもの成長に繋がる教育活動として評価された（学校評価）。また、PTA本部役員の方々や後援会員の方々・おやじの会会員の方々をはじめ多くの皆様のご支援ご協力のなかで、安全・安心な学校づくりに取り組むことができた。

## 生徒会憲章を実現し

# 「未来を切り拓く生徒の育成」を目指します

### 1 特色ある学校づくり概要

「中央中学校の生徒は自分たちの理想とする学校づくりを目指す目標として、生徒会憲章を定める。」この生徒会憲章の実現に向けて、生徒の主体的取組を支援し、自らに誇りを持たせ自己肯定感の醸成を図る。併せて、以下の「7つの凡事徹底」を推進し、しっかりとした生活習慣を身に着けさせる。

- ①あいさつ ②返事 ③時間を守る ④清掃をしっかりと行う  
⑤正しいことば遣い ⑥正しい身だしなみ ⑦いたわりの対応



毎朝行っている落ち葉掃き・挨拶活動

### 2 具体的な活動の紹介

#### (1) 生徒ボランティアによる落ち葉掃き・学校菜園の整備活動

毎朝、ソフトボール部の生徒たちが、雨の日も継続して自主的に落ち葉掃きや挨拶活動を行った。その活動が評価され、所沢市や所沢警察署から感謝状をいただいた。学校の前を通行する地域の方々からも励ましの言葉をいただき、生徒たちの自己肯定感もさらに高まっている。また、生徒たちが学校菜園の整備に自主的に取り組んだ。参加した生徒たちは、自分たちが苦労して育てた野菜等を収穫することで、食物のありがたみや自然の雄大さなど、食育・環境教育について学ぶよい活動となった。特色ある学校づくり支援事業の予算から、整備費として充てさせていただいた。

#### (2) 除草作業・3年生による校内環境整備

学校行事や生徒が主体となる様々な活動について、その活動の意義・目的を意識しながら実施してきた。体育祭の前に、体育委員や各部活動が除草作業を実施し、生徒会憲章の中にある、自分たちの学校の学習環境を自分たちで改善しよりよい学校にしていく活動ができた。また、卒業を控えた3年生が、これまで使ってきた自分たちの校舎を清掃・整備する活動も行った。当日の運営をはじめ、呼びかけや片付け等は生徒たちが行った。きれいで美しい学校環境を維持する有意義な活動となった。

#### (3) 合唱コンクール（所沢市民文化センターミュージズ）

特色ある学校づくり支援事業の予算を賃借費として充て、所沢市民文化センターミュージズにおいて合唱コンクールを行った。実行委員やパートリーダーを中心に、生徒が主体となって練習を重ね、当日はミュージズのステージ上で堂々と発表することができた。参観した保護者からも大きな賞賛の拍手が送られていた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価において以下の成果が確認できた。（肯定的評価の割合）

生徒		保護者	
自分には、よいところがあると思う	78.8%	生徒が学校へ行くのが楽しいと言っている	80.4%
身の回りや教室・廊下の美化に努めている	77.1%	校舎はきれいで、教育環境が整っている	95.9%
行事に協力し、集団への所属感を深めることができた	91.2%	学校行事が充実しており、生き生きと活動している	84.5%

## 本校は、「笑顔と活力にあふれ、

## 温もりと居場所がある学校」を目指します

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は、「問い」と「出会い」を大切に、「持続可能な社会の創り手」となる生徒の育成に取り組んでいる。また、ESD教育の視点を取り入れた教育活動を展開し、SDGsの活用を通して、広く社会に目を向け、主体的に行動できる生徒の育成を目指している。

以下4点を特色ある学校づくりの視点として、取り組んでいる。

- ① 生徒にとって…「生き生きと学び、安心して通える学校」
- ② 教職員にとって…「互いの持ち味を大切に、協働と感謝のある学校」
- ③ 保護者にとって…「子どもの成長が見え、信頼できる学校」
- ④ 地域にとって…「明るく開かれ、応援したくなる学校」

### 2 具体的な活動の紹介

- (1) 合唱コンクール…10月にミューズを会場に開催した。昨年度よりも保護者の観覧数を増やし、800名を超える保護者が参観する中、「百歌繚乱～我らの歌声天まで届け～」のステージにふさわしい発表会となった。実行委員の生徒が中心に運営を行い、美術部作成の看板が舞台を盛り上げた。
- (2) 体育祭…熱中症対策を鑑み11月に開催した。保護者の参観については制限を設けず、500を超える家庭が参観した。体育委員会をはじめとする生徒が準備や運営に力を発揮し、充実した1日になった。
- (3) 校外学習…今年度も全ての学年で校外学習(1年:加治丘陵、2年:川越、3年:京都・奈良)に出掛けることができた。3年生の修学旅行では、事前計画のもと、奈良でのグループ行動に自主的に取り組み、思い出深い、有意義な学びとなった。
- (4) 部活動…PTAや愛校会の温かい支援を受け、多くの部が大会で活躍した。特に、合唱団(合唱部+有志)は茨城県水戸市で開催された関東大会出場を果たした。音色や歌声を合わせた発表は、聴く人を魅了した。
- (5) 学校ホームページ…学校の教育活動を保護者や地域へ迅速且つ積極的に発信し、地域や家庭との連携及び啓発を促進している。



合唱コンクール



体育祭

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・保護者の声…合唱コンクールや体育祭では、生徒の懸命な姿に感動した。
- ・地域の声…地域の夏祭り等の行事では、生徒が積極的にボランティアに参加してくれ、小学生のよい手本となっており、地域の活性化につながっている。



## 地域と共に育つ学校づくり

### — 自信と誇りを持ち、未来にはばたく東中(がっちゅう)生徒 —

#### 1 特色ある学校づくり概要

本校では、「清新で魅力ある東中学校づくり」を経営理念に据え、「自信と誇りを持ち、生きる力を身に付けた生徒」①自ら学び、互いに高め合える生徒を育成する。(知)

②自己を見つめ、思いやる心を持ち、協力できる生徒を育成する。(徳)

③心身ともに健康で、進んで実行できる生徒を育成する。(体)を目指す生徒像としている。

教育目標は「自立と貢献」であり、これを学校・家庭・地域で共有して、目指す生徒像の実現を目指している。協力的な

地域の方々の方々の厚意により、多くの教育活動が支えられ、協働体制も築けている。特色ある学校づくりを通して、「自信と誇りを持ち、未来にはばたく東中生徒を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進した。



合唱コンクール クラス合唱

#### 2 具体的な活動の紹介

①学び創造アクティブ PLUS のねらいに迫る授業の展開の研究を進め、生徒一人一人のよさを伸ばし、個に応じた、主体的な学びが成立する授業の工夫改善を進めた。

②基礎基本の定着、家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の手引きと家庭学習ノートの活用、家庭学習アンケート(生徒、保護者)の実施とともに年3回の基礎学力テスト(東中検定)を実施した。

③毎日の落ち着いた学校生活を作り出すため、全校一斉の朝読書を推進した。

④特別支援学級において、相互理解を深める交流及び共同学習を推進した。

⑤体育祭や合唱コンクール、校内除草作業などの学校行事では、学校、保護者、地域が一体となった教育活動を推進した。

⑥東川清掃・校内除草作業等のボランティア活動を生徒会主催で企画・運営し、PTA・後援会と連携して実施したことにより、生徒の道徳心や奉仕の心を培った。

⑦学びの場にふさわしい緑化活動を推進した。

⑧合唱コンクールでは、所沢市民文化センターミュージズの大ホールを利用して、生徒が生き生きと活躍できる場を提供して感動ある体験を実施し、自信と誇りを持たせることにつながった。

#### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も地域と共に育つ学校づくりを運営することができた。「学校だより」や「学校ホームページ」を通して教育活動の様子を発信することで、保護者・地域との連携をさらに進めた。また、学校公開日や学校行事には、毎回、多数の保護者や地域の方の来校があった。今後も、生徒や教職員が地域と共に活動を行うことで、生徒に活躍の場、学校と地域の方々との交流の機会を増やしていきたい。

## 地域の香りを大切にし

# 地域とともにある特色ある学校づくり

### 1 特色ある学校づくり概要

本校では『地域の香りを大切にし、地域とともにある「特色ある学校づくり」』の推進を目指し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を持った生徒を育成するために、「所属感」「存在感」「一体感」「達成感」を味わわせ、潤いと笑顔と歌声のあふれる安松中を目指して教育活動を進めている。

本年度の重点として、①「主体的・対話的で深い学び」を通じた授業改善②心がホッとする学級・学年・学校づくりを柱としている。

また校内研修テーマとして「生徒の考えを引き出す対話、発問の工夫」を掲げ、「特別の教科 道徳」の研修を中心として、心豊かな、思いやりのある生徒の育成を目指している。

### 2 具体的な活動の紹介

#### <学校生活>

- ・「生徒が自ら考えを持ち、仲間と伝えあう取組」において、外部から講師を招聘する等、道徳の授業研究を中心に進めた。各授業においても、研修の成果が派生したことによる授業改善で、自ら考え自分の言葉でまとめる力が伸びた。
- ・教師の自主研修の機会の充実を図るため、指導法に関する書籍や改定された生徒指導提要の解説本等を購入し、職場の環境整備に努め、学校の教育力の向上につなげた。
- ・生徒の健やかな体の育成を目指し、校庭整備に努めた。ボールの貸し出しやグラウンド状況の改善を行うことで、休み時間等、校庭で活動する生徒が増えた。
- ・新しいトイレをきれいな状態で保つため、掃除用具を随時購入し、生徒が毎日の清掃に積極的に取り組める環境を整えることができた。また、生垣の整備や樹木剪定を効果的に行い、校地内の安全確保に努めた。

#### <学校行事>

- ・合唱祭の練習では、各学級の合唱練習が充実できるように、音響機器を増やすなどの対応をした。管理を生徒の係活動で行い、自主性も高めることができた。
- ・図書室の環境整備を図るとともに、図書委員会による読書の呼びかけ、読書コンクールの実施や日々の朝読書の効果もあり、読書に親しむ生徒が増えた。

#### <地域との活動>

- ・「ボランティアカード」を活用し、所沢市環境美化の日、地域の防災訓練や夏祭りボランティアなど様々な地域行事へ生徒の参加を促すことができた。



道徳研修



音楽祭

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・今年度は、豊かな心と思いやりのある生徒の育成を目指し、道徳の授業作りに力を入れた。その結果、生徒は、自らの考えを発信する力や他者の意見に耳を傾けることの重要性を再認識することができた。これに伴い、他教科の授業においても協働的な学習が深まった。
- ・今年度は、体育祭や合唱祭の行事では、感染症対策を講じたうえで、参観人数制限を撤廃し多くの保護者に参観していただいた。保護者からは、「大変感動した」「先生や子供の努力に感謝します」などお褒めの言葉を多数いただいた。
- ・ホームページのリニューアルに伴い、学校ブログ等を開設し、保護者や地域の皆様からは、生徒の様子がよく分かるとお褒めをいただいた。

## 「地域に根ざし 地域とともに歩む

## 安全安心な学校づくり」の推進

### 1 特色ある学校づくり概要

「地域に根ざし 地域とともに歩む 安全安心な学校づくり」の推進のため、次の取組を行った。

- ア 学力向上のための指導の充実
- イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集
- ウ 柳中農園の活用
- エ 地域と連携した学校行事の充実
- オ 安全・安心な学校づくりのための点検・防犯活動並びに指導の充実



大ホールで合唱コンクールを行いました。  
どのクラスも日頃の練習の成果を十分に発揮することができました。

### 2 具体的な活動の紹介

- ア 学力向上のための指導の充実  
埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査、所沢市ステップアップ調査の結果を活用するとともに、アクティブPLUSにおける「学びの共同体」による学校研究に取り組み、基礎学力の把握と学習指導の改善に生かした。
- イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集  
生徒・保護者・地域に本校の教育のねらいとその現状を広く周知するため、学校だより・各種たより等を配布した。また、通知やPTA活動について、学校ほっとメールで周知した。
- ウ 柳中農園の活用  
約1000㎡の農園の一層の活用を図り、1学年の総合的な学習の時間にジャガイモの栽培を行った。3年生では、大根、カブの栽培を行った。特別支援学級では、大根やカブの栽培を行い、販売学習を行った。今年度冬季より、地域の方の協力により、柳中農園の更なる活用が決まった。
- エ 地域と連携した学校行事の充実  
体育祭・合唱コンクール等の学校行事を実施した。特に、合唱コンクールについては、全校生徒および保護者で実施することができた。
- オ 安全安心な学校づくりのための点検・防犯活動並びに指導の充実  
学校の施設設備に関する安全点検活動は、年1回の総点検と定例点検を行い、教育環境の維持、充実を図った。また、安全・安心会議を12月12日（火）に行い、地域全体で防犯や安全に関する協議を行った。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

#### (1) 成果

コロナウィルス感染症が5類になったことで、体育祭や合唱コンクールを全校一斉に開催できた。

#### (2) 子供の声

体育祭や合唱コンクールを制限がない中で行うことができたので、クラスが団結するよい機会とすることができた。

#### (3) 保護者の声

体育祭が大変盛り上がりよかった。また、合唱コンクールも大ホールで行うことができ、他の学年の歌声も聞くことができたので、とてもよかった。



## 地域とともに歩み、自信と誇りある学校

### 「ふるさと とみおか」

学校は、家庭・地域のパートナー

「協働・共同」による連携を推進し地域とともにある学校を目指します

#### 1 特色ある学校づくり概要

第51回松の木祭（合唱コンクール）を10月に行った。数年間、音楽の授業で歌を歌うことができなかつた生徒たちが、ミューズのホールで歌声を響かせることができるか不安の中、各クラスの実行委員が曲選びから練習計画等を考え、生徒主体で運営できるように、教員はサポート役に徹した。

収容人数の関係で、参観者を生徒1名につき保護者1名のみと制限せざるを得なかつたが、参観した3年生の保護者の中には歌声を聞いて涙する方もいて、それを見てもらい泣きした教職員の姿も見られた。



第51回松の木祭

#### 2 具体的な活動の紹介

##### (1) 共に学び考える生徒の育成

生徒が「わかった」「できた」と感じられる授業を目指し、授業のどの場面で、どのような方法で、どんな手立てをとるのか考え授業改善を進めた。また、1人1回以上の研究授業を行い、教科の枠を取りはらい他教科教員で授業を見合い、指導方法を模索した。学校評議員会では普段の授業を評議員の方々に参観していただき、生徒の様子を見ていただく機会をもつことができた。

##### (2) 豊かな感性と社会性を持つ生徒の育成

生徒の言葉で富中人権宣言を生徒総会で発表し、互いの人格や個性を尊重し合うことを確認し、平素からいじめのない温かい人間関係づくりに努めた。また、今年度から立ち上がった特別支援学級の生徒が、総合的な学習の時間に一緒に参加したり、給食を一緒に食べたりして交流を深めた。

1年生は総合的な学習の時間で「福祉」について、社会福祉協議会の協力でアイマスク体験や車イス体験を通して学びを深めた。

##### (3) 活力あるたくましい生徒の育成

本校の特色である「ふれあいチャレンジ in 富岡」では、2年生生徒が農家9件と事業所15件で3日間職場体験を行った。地域の方の仕事への想いに触れながら、体験を通して「働く」という心構えを学ぶことができた。

#### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

保護者対象学校評価では、「生徒の力が高まる授業をしている」の項目で「とても思う」「まあ思う」が71.6%と高い評価を得られなかつたため、授業改善を継続して行っていく必要がある。

1年生生徒「障害のある方の力になりたいのでボランティアをやってみたい。」2年生生徒「職場体験で、働くことは大変なこともあるけど楽しいこともあると感じた。」などの声があった。今後も、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を続け、学力・豊かな心・たくましい身体をバランスよく育んでいく。



# 主体的にたくましく生きる生徒活動

— 地域と共に、きれいな学校・元気な学校づくり —

## 1 特色ある学校づくり概要

本校は「主体的にたくましく生きる生徒」を学校教育目標とし、その達成のために、生徒一人一人が活躍できる場や行事を設定し、個性の伸長を図るとともに奉仕の精神や地域の一員としての意識の育成に力を入れている。3大行事（体育祭、合唱祭、三送会）を中心に学校行事を生かして知徳体のバランスのとれた生徒を育成し、粘り強く最後まで頑張る「小手中魂」の伝統を継承し地域と共にきれいな学校・元気な学校づくりを目指している。



合唱祭（ミュージズ大ホール）

## 2 具体的な活動の紹介

### （1）「生徒一人一人を大切にする授業の創造」

- ①「本時のねらい」の明示。『わかる授業は最大の生徒指導』に基づいた全教師の日々の授業の創造。充実感を味わえ、学習意欲の向上と自己肯定感を高められる授業の創造。ICTを活用した授業。
- ②職員研修の充実、教科部会の研修  
今年度は所沢市の「学び創造アクティブプラス」の委嘱を受けており、教育センターとの共催で国立教育政策研究所総括研究員の山森光陽先生を指導者に迎え、研修を行った。校内研修のテーマを「課題解決に前向きな生徒の育成～ICTを支援的に活用して～」とし、全員が研究発表を行った。

### （2）小・中の9年間を見通した教育の推進

- ①生徒指導・教育相談・相談室の情報交換
- ②キャリアパスポートを活用した進路・キャリア教育
- ③生徒指導部による小手指小・上新井小の授業参観、情報交換

### （3）「主体的にたくましく生きる」を目指した学校行事

- ①1年校外学習（川越）、2年校外学習（東京）、3年修学旅行（京都・奈良）、8組合同遠足（稲荷山公園）に出かけ、計画、実施、反省を行い、それぞれ次につながる行事となった。
- ②体育祭：保護者の参観に制限を持たせず、コロナ禍前と同様の体育祭を行うことができた。異常な暑さのため、練習が制限されることもあったが、生徒は暑さにもめげず、一生懸命取り組んだ。
- ③合唱祭：4年ぶり保護者の参観等を限定しないミュージズで合唱祭を行った。残念ながら直前のインフルエンザ流行のため、全クラスの参加とはならなかったが、どのクラスも練習の成果を発揮し、発表することができた。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本年度行った学校評価保護者アンケートでは、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた評価が、「生徒は、体育祭・合唱祭に熱心に取り組んでいた」が89%  
「生徒は、校外学習や様々な学校行事を経験して少しずつ成長してきている」が91%  
「生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる」が73% 等の評価をいただいた。学校生活において生徒は達成感や充実感を味わい、着実に成長し、保護者からも高い評価を得ている。

## 所沢市立北野中学校

北野中学校は 「志を持ち、共に高め合う生徒の育成を目指し  
地域と共に成長する学校づくり」を推進します

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は、「進んで学び、心身を鍛え、協力して働き、生きる力を伸ばす生徒」という学校教育目標の具現化のため、保護者や地域の方々の協力により、行事や体験活動を行い特色ある教育活動を展開している。本年度は感染症対策が解除され、地域の教育力をより生かし、地場産業のお茶を学ぶ茶道教室や職場体験等の数多くの体験的な学習を実施した。



消防署での2年生職場体験

### 2 具体的な活動の紹介

#### (1) 体験活動（総合的な学習の時間）

第一線で活躍する方々を講師に招き、1年生は「地域に学ぶ、働くということ」をテーマに茶道体験・地域を知る（産業・文化・自然・人）。2年生は「自然に学ぶ、学ぶということ」をテーマに自然体験学習、上級学校出前授業、進路学習。3年生は「古都に学ぶ・生きるということ」をテーマに世界遺産古都京都奈良を学ぶ・国際協力とSDGs（JICAの方々との交流点字・視覚障害・認知症サポーター養成講座）・進路選択決定の学習を進めた。

#### (2) 社会体験チャレンジ事業（職業調べ1年、職場体験・2年）

1年生は「職業調べ」として4業種の方たちに来校していただき、出前授業を実施した。各業種の方と触れ合いながら、業務や職業観について学んだ。2年生の「職場体験」は38事業所にご協力をいただき、貴重な体験を通して職業について学んだ。

#### (3) 学校ファーム

特別支援学級では、季節に合った野菜を育て収穫し保護者への販売や調理実習を行っている。

#### (4) 行事（体育祭、合唱コンクール）

本校の行事は、地域や保護者の支援協力により実施されている。体育祭では当日の補助、合唱コンクールの保護者受付、毎年大勢の参観者による温かい声援に生徒たちは励まされ力一杯活動している。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○成果：今年度は感染症対策が解除され、戻すべきこと、戻さなくてよいこと、変更した方がよいことを精査し、工夫しながら実施した。結果、保護者の学校アンケートにおいて80%以上の方から、体験活動でお子さんが成長していると評価をいただいた。

○保護者の声：北野中学校のおかげで、子どもがとても成長させてもらっていると日々感じている。

○地域の声：保護者や関係機関と連携した教育活動が計画・実践され、子ども達の豊かな心が育まれている。



豊かな教育活動を通して、

「共に高めあう心豊かな生徒」の育成を推進します。

～ 『誰もが居場所のある』山口中 ～

## 1 特色ある学校づくり概要

【 特色ある学校づくりを推進する5つの視点 】

- ① 学力向上の取組：誰もがわかる授業の実践
- ② 心の育成の取組：心のエネルギープロジェクトの推進
- ③ 地域との連携：コロナ禍の中で希薄化した地域とのつながりの再構築
- ④ 家庭との連携：信頼関係を築くための適切な対応
- ⑤ 小中連携：中1ギャップの解消に向けた小学校との連携



原作者（生徒）と やまにゃん

## 2 具体的な活動の紹介

- ★ 生徒一人一人の実態に即した授業を工夫し、誰もがわかる授業実践を推進するために、特別支援教育の講師を招聘し、校内研修で年間を通して講義（講演会）を開催（年間3回）。教員一人ひとりの授業力向上、学力の定着に困難を抱える生徒への指導スキル向上に成果があった。
- ★ 家庭科の調理実習『焼き団子』にてボランティアの方を招聘し、授業の教育的効果が向上した。
- ★ 荒幡富士の清掃活動（2回開催）・地域自治会の夏祭り・体育協会主催のウォーキング大会、中氷川神社の清掃活動&焼き芋…など、コロナ禍で中止（縮小）していた行事が復活・開催した。本校の多くの生徒や教職員がボランティアとして活躍する場を確保することができた。
- ★ 山口中のキャラクター『やまにゃん』を広く地域・保護者・来校者に知ってもらい、広報活動を活発にするために、愛校会が中心になって『やまにゃん』のぬいぐるみを業者に発注・製作した。製作に掛かった費用の一部を特色ある学校づくり支援事業の資金から支出した。

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度は、コロナ感染対策による制限がなくなり、学校行事や地域自治会行事が復活した一年であった。合唱祭を酷暑厳しい9月中頃に、体育館アリーナで開催できたのは、特色ある学校づくり支援事業の資金とPTA予算をつかい冷風機を準備できたからであり、土曜日に合唱祭・体育祭などが開催できたことで多くの保護者（家族）・地域の方々に参加していただき、『やまにゃん』も知っていただく機会となった。



# 「小中連携・地域活動参加により、 自主自律の気風を育てる」

- 行事等、様々な体験活動を通じて、心豊かな生徒を育む。
- 地域活動に積極的に参加し、地域との絆大切にする生徒を育む。
- 環境美化や地域の体験を通して、環境を大切にする生徒を育む。

## 1 特色ある学校づくり概要

本校は、「小中連携・地域活動参加により、自主自律の気風を育てる」という特色ある学校づくり宣言を掲げている。「狭山丘陵の雑木林」「トトロの森」「菩提樹のたんぼ」「柳瀬川の源流」など歴史と文化に恵まれた環境を背景に急速に発展してきた。

本校の生徒は、緑に囲まれた美しい環境の学校と自ら進んであいさつのできる学校を誇りに持って、日々、生き生きと活動している。本年度の学校教育目標は、①自ら学ぶ生徒、②心豊かな生徒、③言動に責任を持つ生徒、④健康でたくましい生徒の4つである。特に健康でたくましい生徒に重点を置き取り組んできた。

## 2 具体的な活動の紹介

今年度は、コロナによる制限がなくなったことから、特に体育祭・合唱コンクールについては、保護者参観の制限をなくし、生徒の活動や頑張りの様子を広く保護者に観覧いただくことができた。どちらの行事も、子供の様子を見ることができ良かったという言葉がたくさんいただき、これまでの4年間とは異なり、改めて学校の様子を家庭に開くことができたと感じている。

地域との連携については、これまでの柳瀬川及び椿峰緑道清掃とともに、4年ぶりに開催された「子ども焼き芋大会」にもボランティア活動として生徒が参加することができた。

焼き芋の準備はもちろん、生徒が主体となって進めた地域の幼児やその保護者等とのゲームの進行については、地域の方々とのふれあいの機会となり、学校と地域の絆を深める温かい活動となった。生徒が主体的に考え、活動し、体験したことは、子供たちにとって何よりの学びの場につながったと感じている。



焼き芋大会ゲームの様子

## 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

焼き芋大会が久しぶりに開催され、とてもうれしかった。自分たちが中心になって進めたゲームに参加した方みんなですることができ、とても楽しかった。焼き芋大会を通して、心がつながった感じがしたので、また来年も参加したい。(生徒)



# 未来知を拓く三ヶ島中学校

～まなぶ ひらく つなぐ～

## ○目指す学校像「生徒の社会的自立を支援する学校」

### 1 特色ある学校づくり概要

目指す学校像の具現化のために

- ①「わかる・できる喜びが実感できる授業」を実践し  
「学びに向かう力を高める学校」
- ②ICTを活用した「主体的対話的で深い学び」によって  
「考え・表現する力を伸ばす学校」
- ③行事や学校活動全般を通じて生徒に自信と達成感を味わわせ  
「体験し経験から成長する学校」

の3つを基本に指導を進めてきた。一人一人のよさを見つけ伸ばし、力をつけ、身につけた「学び」を内に向け外に向け発信し、つないでいく。生徒たちに学習活動を通して気づかせ、学ぶ過程を大切に、体験活動や外部指導者を招いてのキャリア教育や福祉体験の充実を図った。生徒の現状・保護者・地域の願いを受け学校課題を把握し、目指す学校像の実現のため、教職員の生徒指導・教育相談に対する意識向上も図った。



2年生福祉学習「白杖体験」

### 2 具体的な活動の紹介

#### ●「学びに向かう力を高める学校」

今年度は「わかる・できる喜びが実感できる授業」の実現のため、校内研修部が中心となり、学力向上のために指導方法の工夫改善に努めている。埼玉県学力・学習状況調査の結果を分析したり、他校の取組を研究したりして研究を進めてきた。授業にICTを積極的に活用する中で、より効果的な場面を探し、生徒がより主体的に学びに向かう学習が展開できるようにした。

#### ●「考え・表現する力を伸ばす学校」

ICTを活用した「主体的対話的で深い学び」を深化させるため今年度は「スクールタクト」を授業に活用し、全校で授業改善に取り組んだ。教科ごとに取り組み、研修部会で授業の展開をはじめ成果や課題についても協議している。また、全校で取り組む「心と身体のアンケート」を通して、思いやりの心や気配りの心を兼ね備えた規範意識を定着させた。

#### ●「体験し経験から成長する学校」

生徒が学校行事に意欲的に取り組む過程を通して、生徒の豊かな心を養い、思考力、判断力、表現力を高める活動を行った。本校の体験活動は、1年「校外学習」、2年「林間学校」3年「修学旅行」を柱とし、行事は「体育祭」、「合唱祭」、「三年生を送る会」を三大大行事として行っている。今年度も感染症対策のため行事の参観に制限があったため、体育祭や合唱祭の動画が閲覧できるサイトを作成し、生徒が活躍する姿を家庭により広く見ていただけるよう工夫した。生徒が行事や体験活動を通じて自信や成就感を身に着けることを目指している。



競技を精選した体育祭

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

全学年の生徒に実施したアンケートの肯定的評価が、「学校に行くのは楽しい」では84.9%、「集団の場にふさわしい態度を取るようにしている」が95.2%、「あいさつや場合に応じた言葉遣いができる」が95.6%であった。また「チャイム着席など時間を守っている。」は92.8%と、生徒が自主・自立の力とともに社会性を着実に伸ばしている。

#### ●保護者の声（学校評価より）

担任の先生が子どもの心の中まで気にかけてくれている。信頼できる担任の先生でありがたい。

## 『夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、 行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり』

### 1 特色ある学校づくり概要

本校は、「夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進している。生徒の生きる力をはぐくむために「思考力(考える力)」を土台とし、「自ら学ぶ生徒(学ぶ意欲)、心豊かな生徒(思いやる心)、たくましい生徒(継続する力)」を育成する教育活動を推進する。また、小中連携、家庭、地域との連携を深めながら、地域に根差した教育活動を展開していく。

### 2 具体的な活動の紹介

①教科指導を要に全教育活動を通して「学ぶ意欲」を育成する。

昨年度に引き続き、所沢市民文化センター「ミュージズ」にて合唱コンクールを開催することができた。音楽、特別活動を通じて、生徒の意欲を高めることができた。また、合唱コンクール実行委員会を中心として練習、準備を行い、生徒の自主性を高めることができた。

参観した学校評議員、保護者の方々にも好評であった。



(令和5年度合唱コンクール)

②道徳の時間を要に全教育活動を通して「思いやる心」を育成する。

昨年に続き、道徳の時間を学校で統一した。担当ローテーションや教材研究を深めることにより、道徳の授業の質を高めることができた。体験学習では、学校ファームを活用した体験学習を行った。自然を愛護する心培うだけでなく、学校公開日で野菜を販売することにより、勤労・生産・販売の体験を行うことができた。

③小学校や地域との連携を深め、地域に根ざした教育を推進する。

本年度は、安全・安心会議をコロナ禍前同様の規模で開催することができた。交通安全では小学生が中学校の敷地を通り、中学生が小学校の敷地を通る交流登校を実施した。小中の連携を深めるだけでなく、「あいさつの輪」の広がりも見られた。

### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

【道徳の授業について 1年生徒】

個人の意見を聞きながら授業のポイントや考えるべきことにしっかり導いてくれるので 授業の意図を理解しやすくて助かっています。

【学校評価(合唱コンクールについて) 3年保護者】

合唱コンクールは素晴らしかったです。子ども達の中で伝統として自然に受け継がれているのだと思いました。と同時に子ども達を陰で見守り、支えてくださっている先生方に感謝です。

## 「みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園」

### を目指します

#### 1 特色ある学校づくり概要

本園の教育目標は「元気な子」「優しい子」「頑張る子」であり、目標達成のために実体験を大切に、心豊かに生きる力の基礎を育てる幼稚園づくりを図っている。

- ・ 幼児の心身の調和的な発達を育成します。
- ・ 家庭や地域の方々に信頼される幼稚園づくりを推進します。
- ・ 安心安全な環境づくりの推進を図ります。

※荒幡地区の自然に恵まれた教育環境や地域の人材を幼稚園教育に生かし、家庭との連携を図りながら「みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園」を目指す。



親子でお茶摘み体験

#### 2 具体的な活動の紹介

- ・ 夏野菜（キュウリ・ナス・ピーマン・ミニトマト）の苗植え、水やり、生育の観察や収穫、大根・二十日大根の種まきや収穫、チューリップの球根植え、ヒヤシンスの水栽培など、実体験を通じた保育を行い、幼児の興味や関心が深まった。
- ・ 地域の方の畑でのいもほり体験では、土に触れながら、さつまいもを掘り、大きさや形の違い、掘ったいもを数えるなど、実体験を通して学び、描画や製作でもダイナミックに表現した。
- ・ 定期的にいきものふれあいの里センターでガイドウォークをしていただき、四季折々の自然にふれながら、自然環境への興味関心を高めた。そして、いきものふれあいの里センターでの「森のミュージアム」では、自分たちの作品が展示され、たくさんの方々に「すごいね。素敵だね」と声をかけていただき充実感を味わった。
- ・ いきものふれあいの里センターで、親子でお茶摘み、お茶づくり体験をさせていただき、所沢の名産に触れ、ふるさと所沢を愛する心につながった。
- ・ いきものふれあいの里センター、吾妻図書館、エコクラブの教育力を活用し、保護者参加の「森の図書館」を荒幡富士で行い、荒幡の自然の中、親子で絵本に触れ楽しい時間を過ごし、絵本への興味関心が深まった。また、図書室を活用し、親子カンガルータイムを実施した。また、園児だけでなく、保護者も選んで借りられるようにし家庭でも親子で絵本に親しめるようにした。



『森のミュージアム』で自分達の作品を見ている子ども達

#### 3 成果及び子供・保護者・地域の声など

いきものふれあいの里センターで体験したお茶摘み、お茶づくり、『森のミュージアム』や、荒幡富士で行った森の図書館では、地域の方や諸機関の教育力を活用して、荒幡の自然の中で様々な体験をすることができた。園児や保護者から「楽しかった。」「充実した時間でした。」などの声が聞かれた。地域の方や諸機関の方からも、「来年も一緒にやりたいですね。」の声があった。



